

小樽商科大学
卒業記念

昭和30年

*When I came, when I came to Otaru,
my heart was swelling high,*





金鱗をどる渺々の
 あけぼの称う浪の唄
 エルムの花に若人の
 涯なきのそみ数々秘めて
 夢うらるはしの

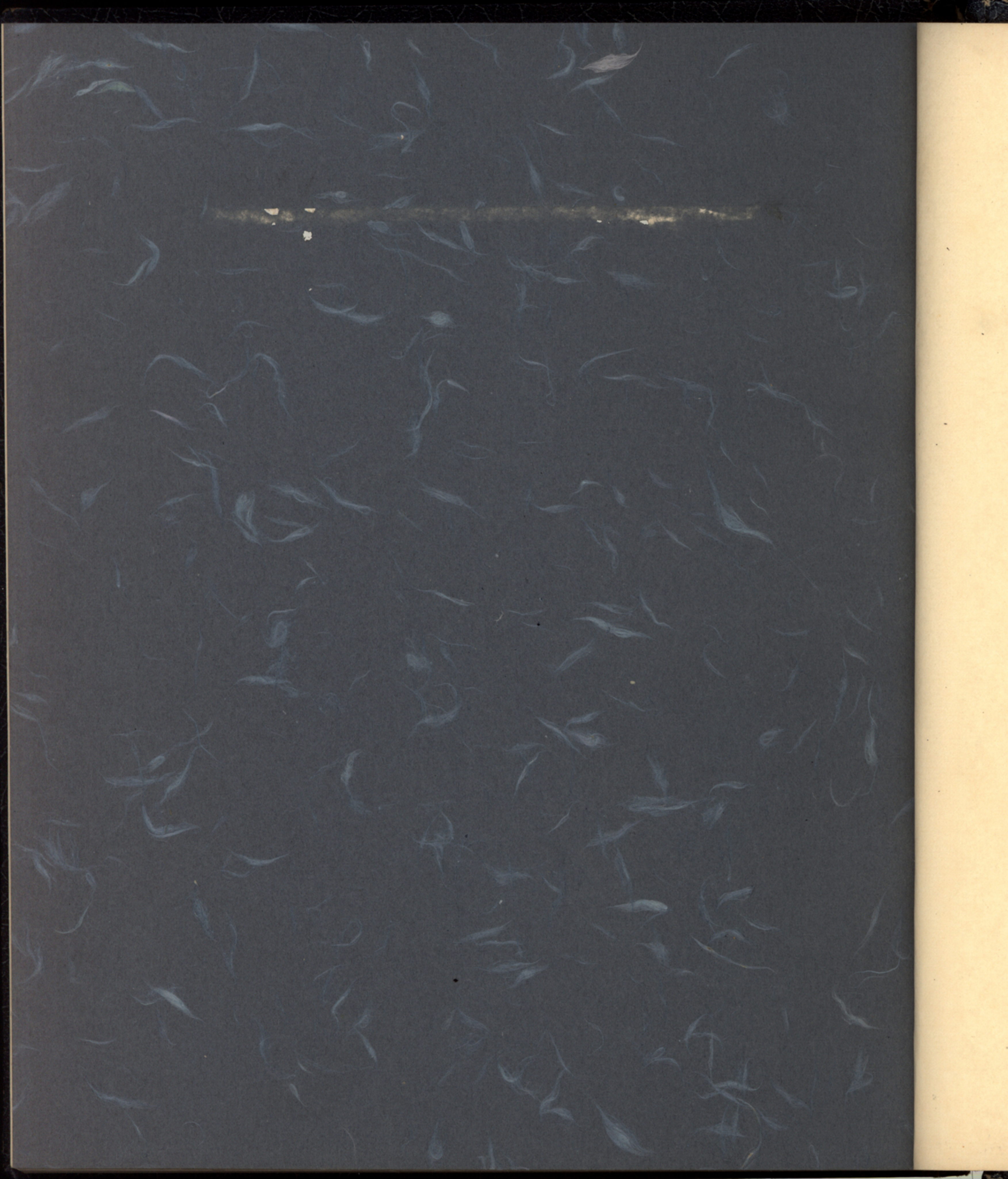
緑ヶ丘よ。



健腕拓く大洲
 凱歌はあがる我母校
 感激みてる若人の
 血潮に清き教へを秘めて
 春永遠の

緑ヶ丘よ。

大野純一学長



恩師

早川三代治教授

室谷賢次郎教授

長谷部亮一助教授

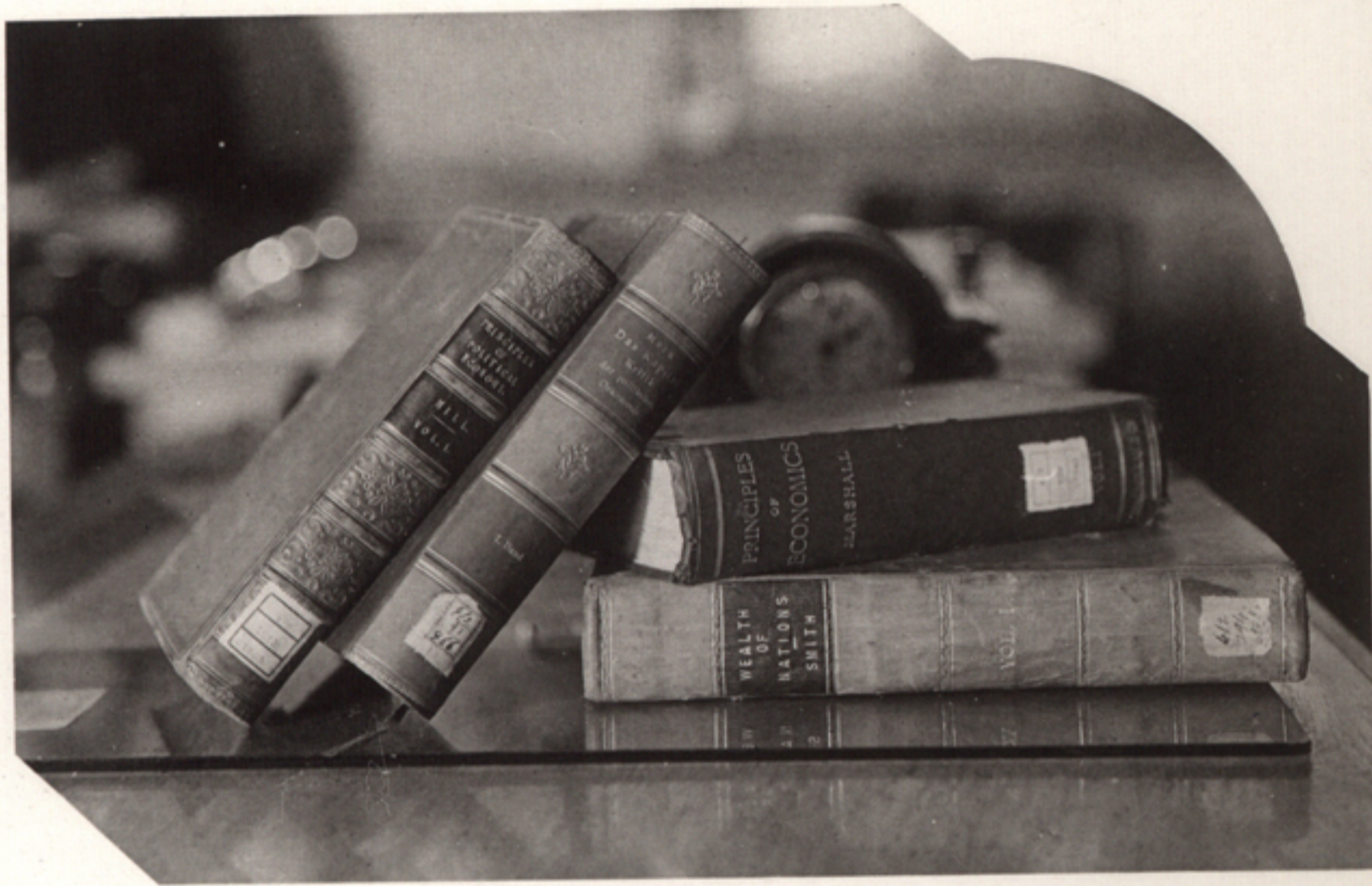
麻田四郎助教授

阪口伸六郎助教授

藤沢正也助教授



恩師



岡本理一教授

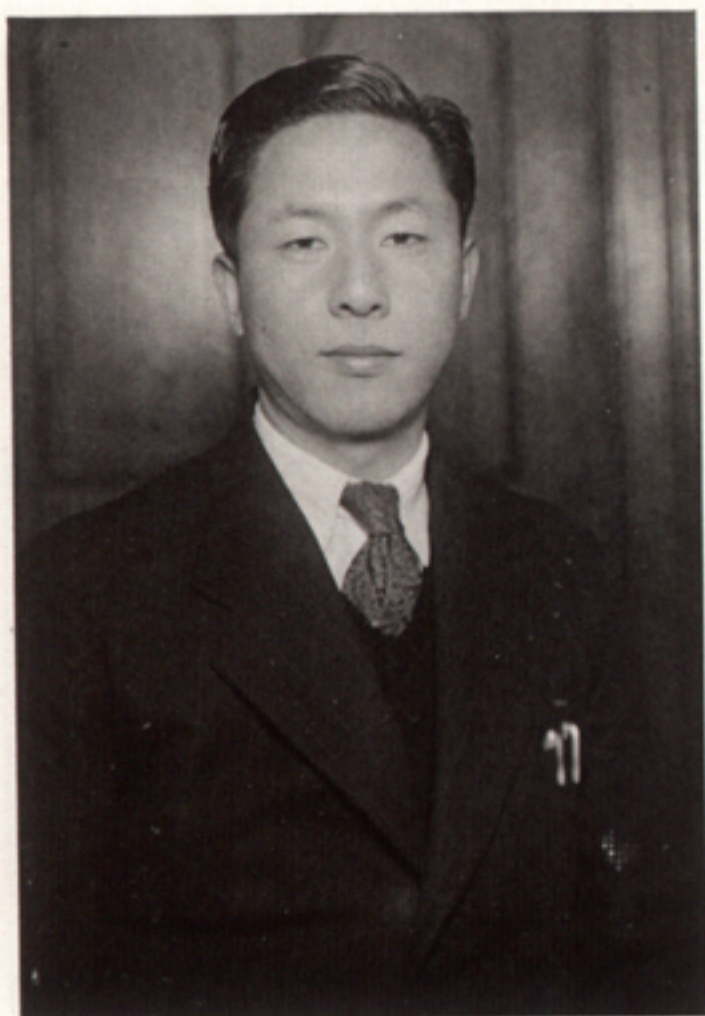
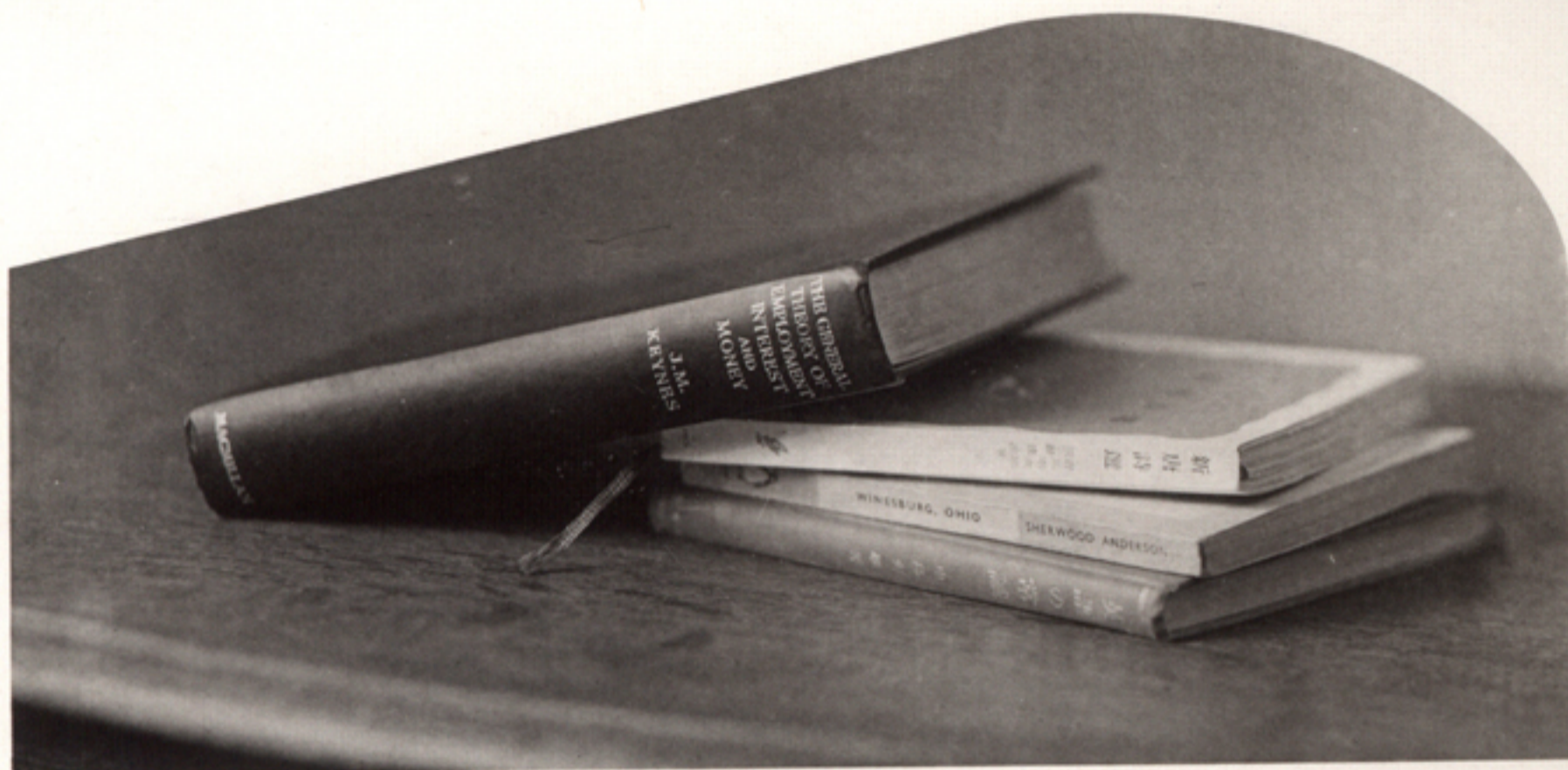
木村重義教授

石河英夫教授

古瀬大六助教授

木村増三講師

島本融講師



木曾榮作教授

玉井武助教授

花村哲夫助教

イアン・ゴードン・マクラウド講師

前田加奈講師

速川浩助教

白川芳郎講師



木部林二教授

喜多了祐助教

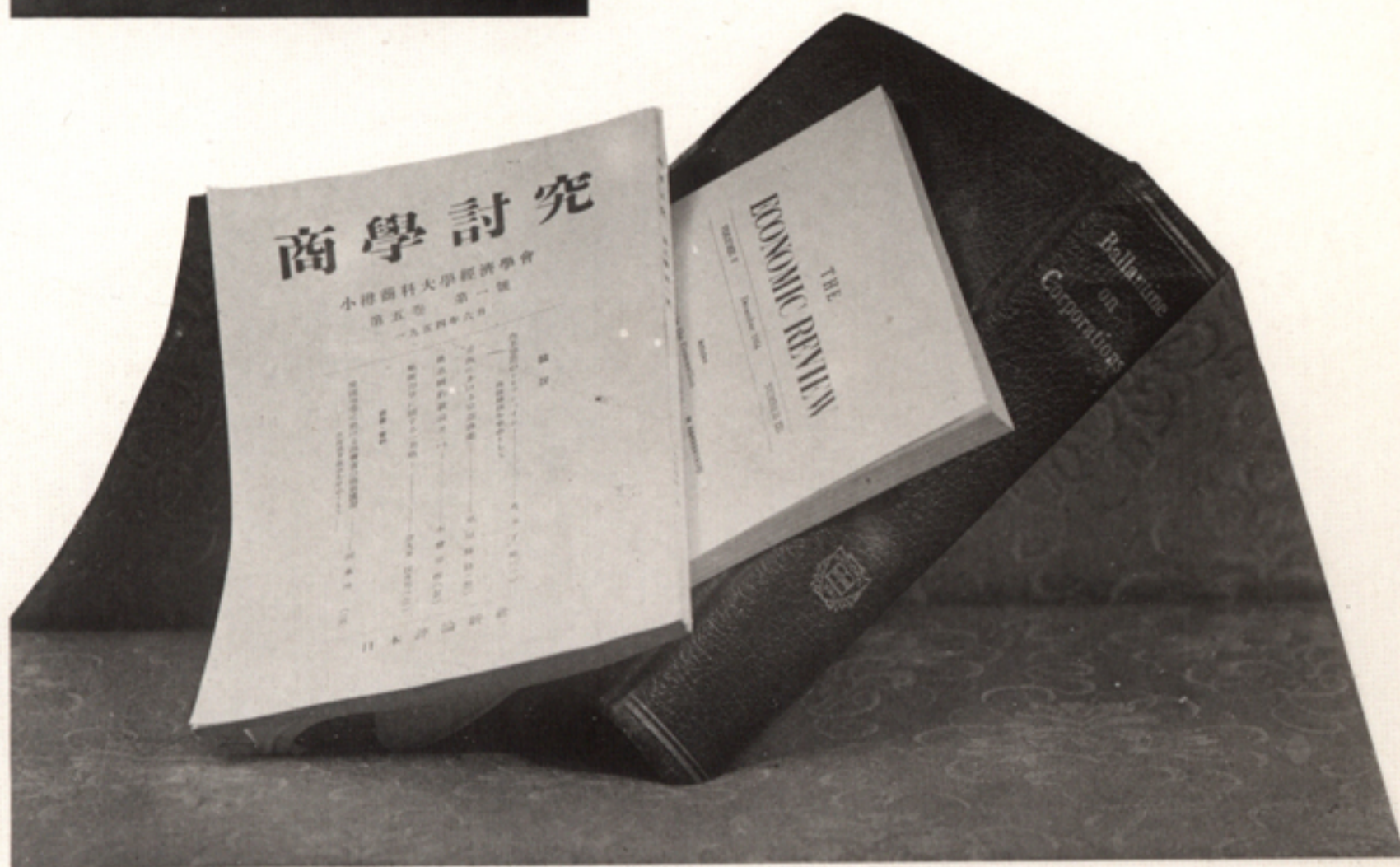
川村三千雄教授

峯村文人教授

久米久一教授

津久井佐喜男助教

浜林正夫助教



商學討究

小樽商科大学經濟學會
第五卷 第一號

目次	頁
本卷要旨	1
論我國經濟之發展	5
論我國經濟之現狀	15
論我國經濟之將來	25
論我國經濟之政策	35
論我國經濟之問題	45
論我國經濟之研究	55
論我國經濟之展望	65
論我國經濟之結論	75
論我國經濟之附錄	85
論我國經濟之索引	95
論我國經濟之參考	105
論我國經濟之資料	115
論我國經濟之圖表	125
論我國經濟之照片	135
論我國經濟之圖說	145
論我國經濟之圖表	155
論我國經濟之圖說	165
論我國經濟之圖表	175
論我國經濟之圖說	185
論我國經濟之圖表	195
論我國經濟之圖說	205

THE ECONOMIC REVIEW

Ballantine Corporation

川原 鳳策 教授

川上 久寿助 教授

坂井 一郎 講師

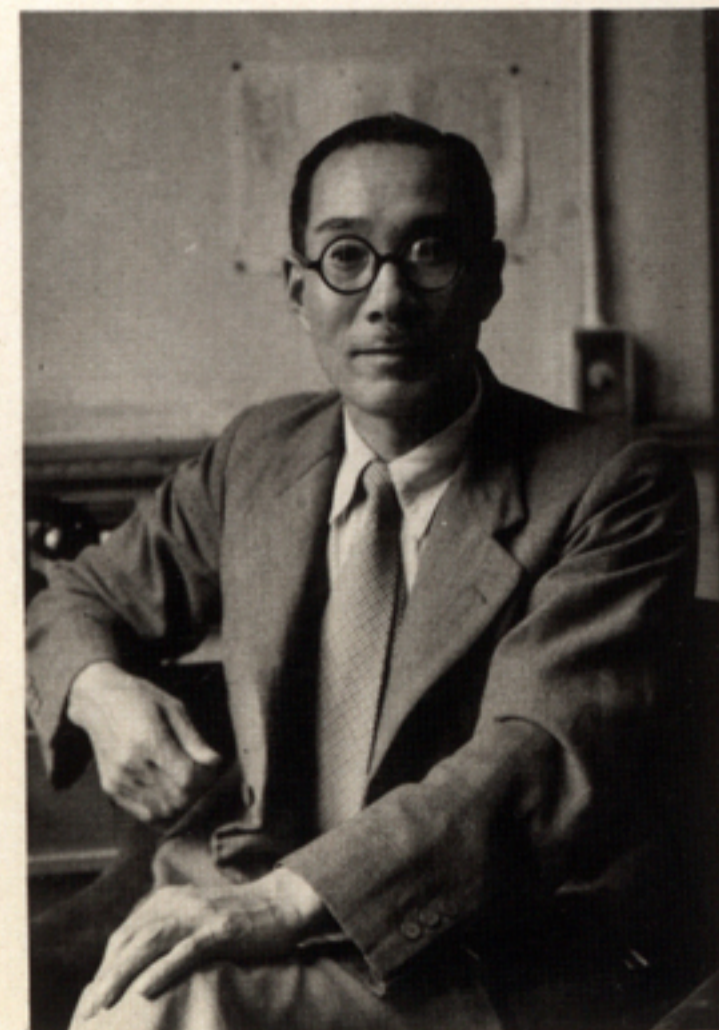
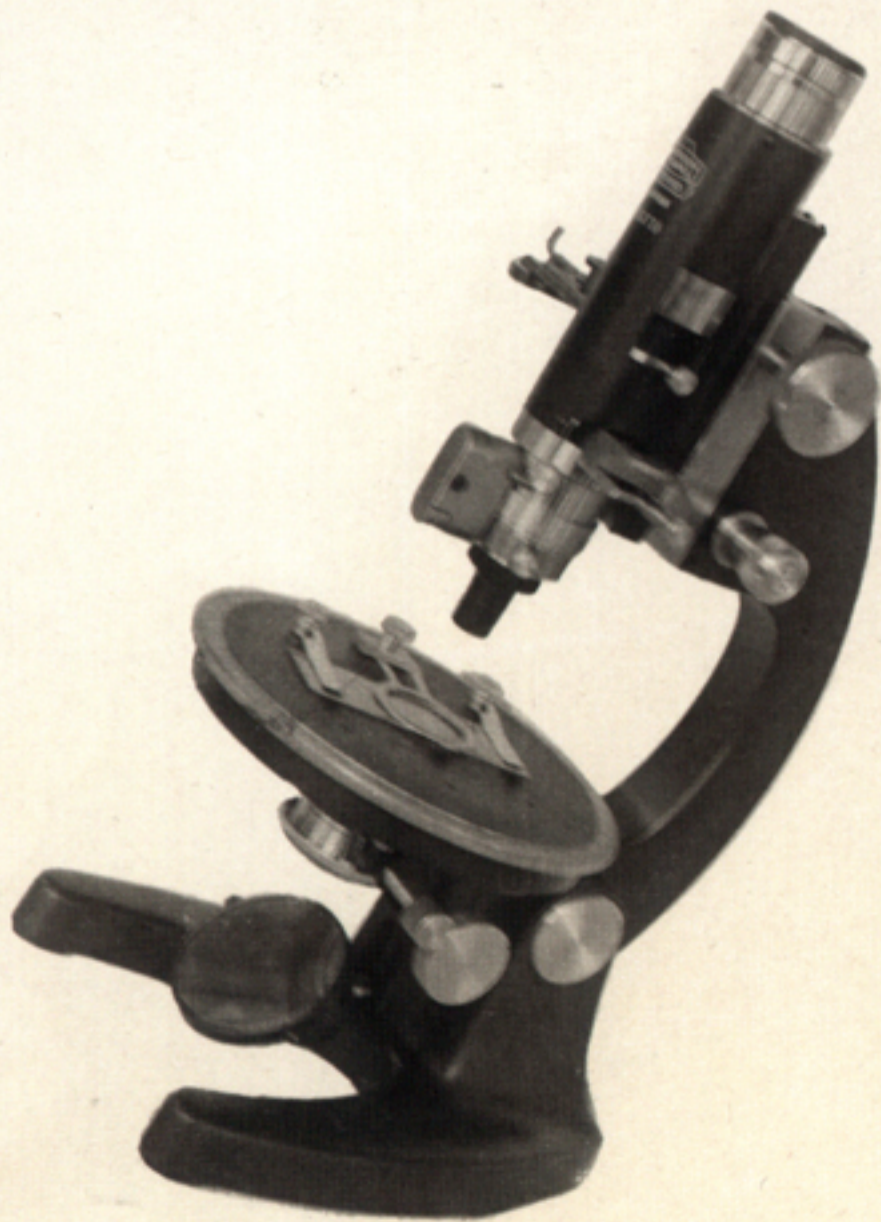
武隈 良一 教授

ゲルハルト・フーベル 講師

前田 利道助 教授

松尾 正路 教授

大黒 マチルド 講師



広田二郎助教授

新谷敬三郎講師

桑原輝路講師

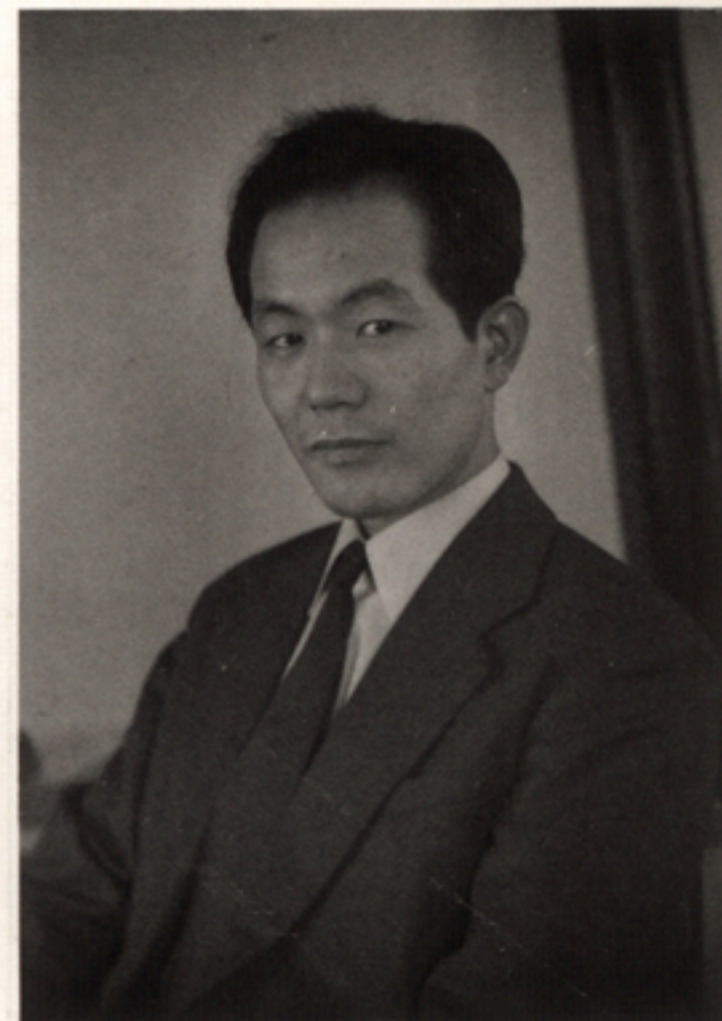
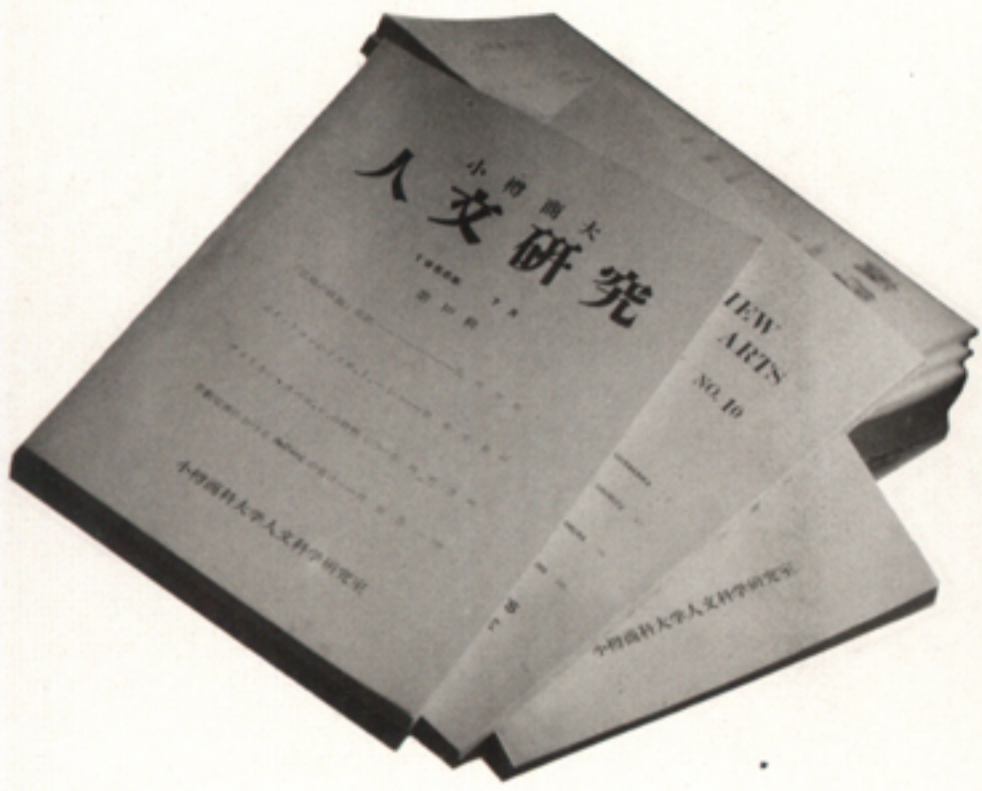
清水春雄講師

レオン・エム・ゾルプロット講師

竹内清講師

地主重美講師

鈴木秀一講師



西野嘉一郎氏

樋口午郎教授

大川一司教授

山田雄三教授

板垣与一教授

佐々木周一氏

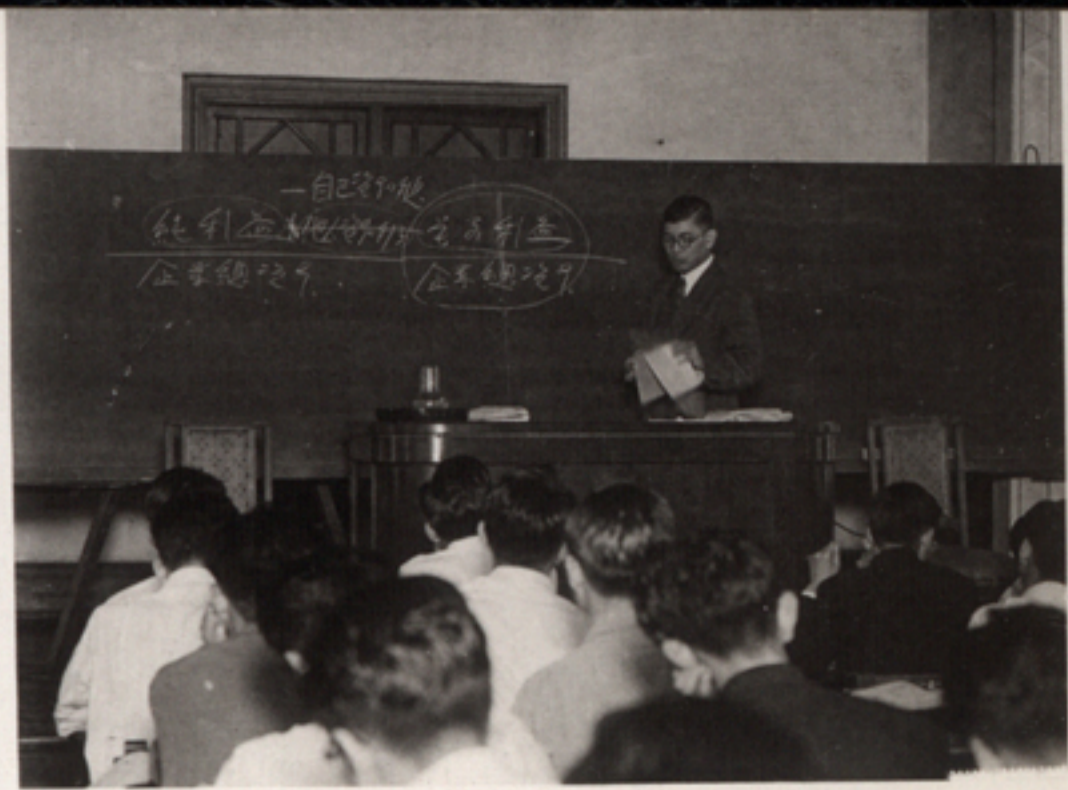
木村元一教授

佐藤弘教授

上原専祿教授

山中篤太郎教授

実方正雄教授



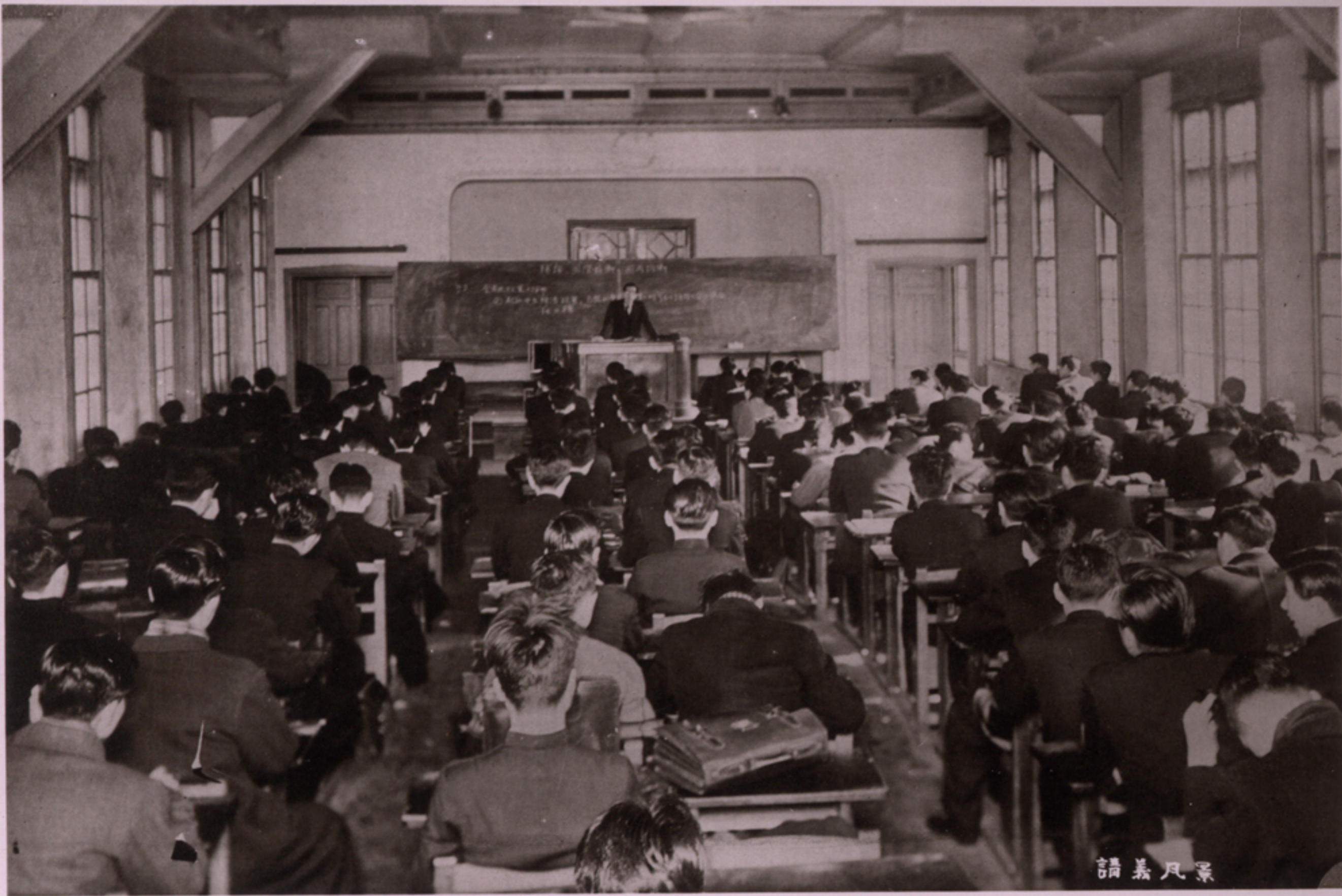
台名訪水之人台



昭和二十九年八月十八日
天皇、皇后兩陛下本校へ御成り



北海道製罐小樽工場御視察



講義風景



石黒三郎



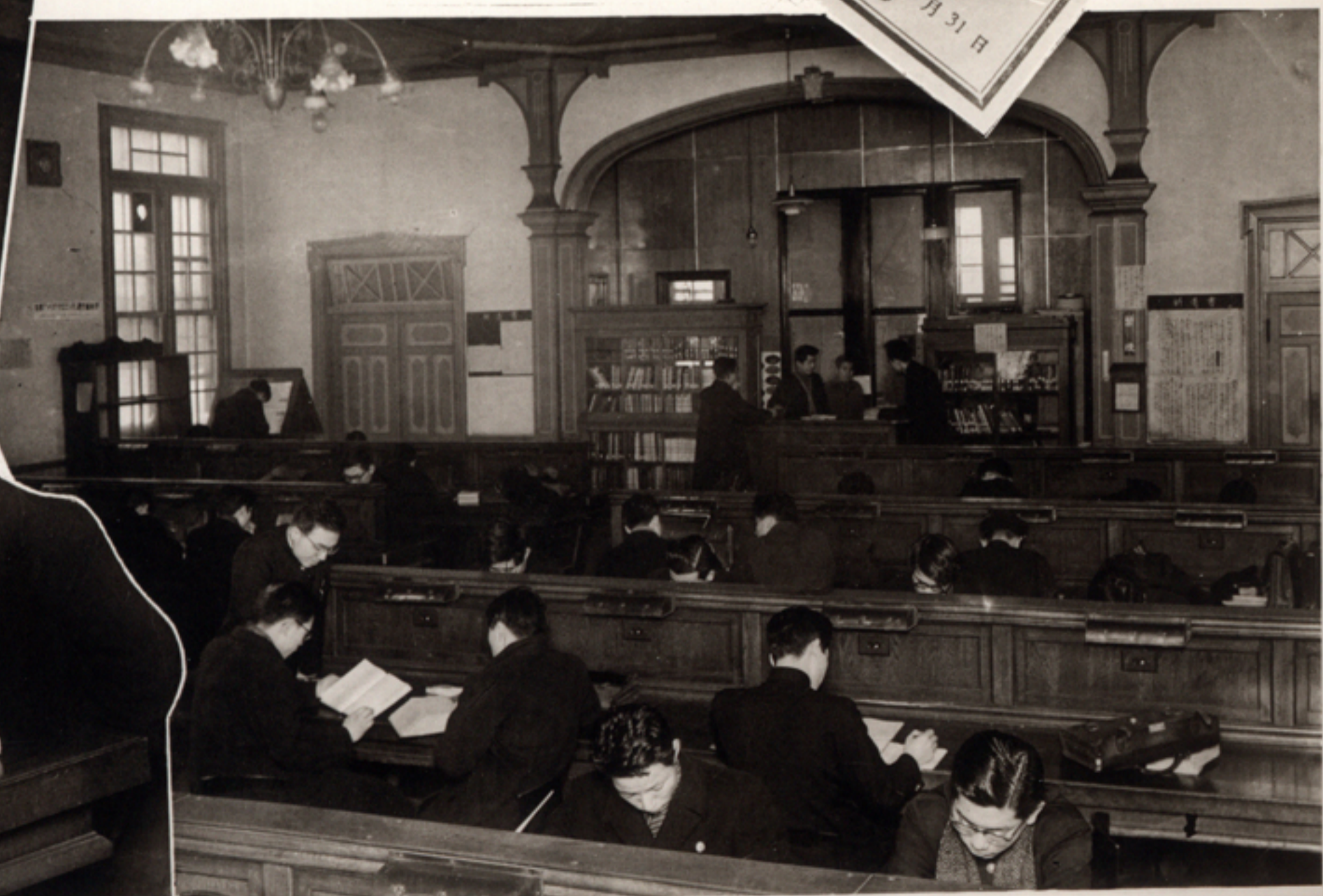
学年末試験

氏名
第 年 生
年 月 日
印

圖書館



No. 223
 26年度生
 小樽前科大學附屬圖書館
 圖書閱覽票
 自昭和29年4月1日
 至昭和30年3月31日



大なる図書室の主

Seminar...
 研 究 会 活 動



早川ゼミナル



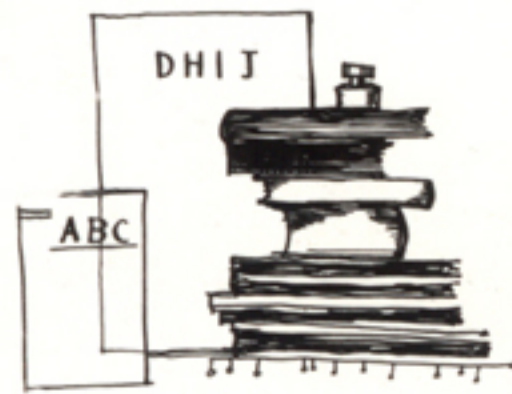
浜林ゼミナル



長谷部ゼミナル



坂口ゼミナル





麻田ゼミナル



古瀬ゼミナル

岡本ゼミナル

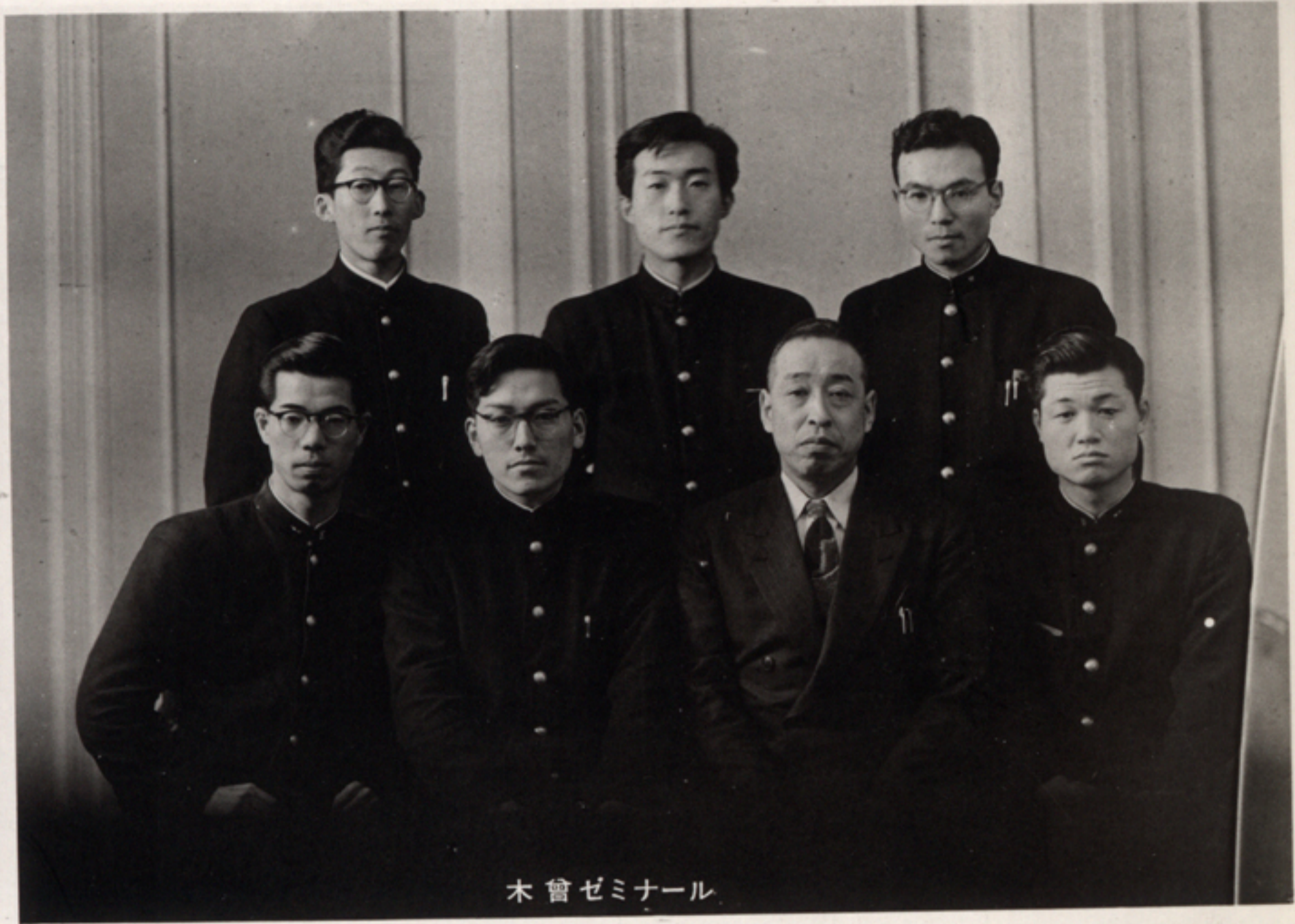


石河ゼミナル





久木ゼミナール



木曾ゼミナール

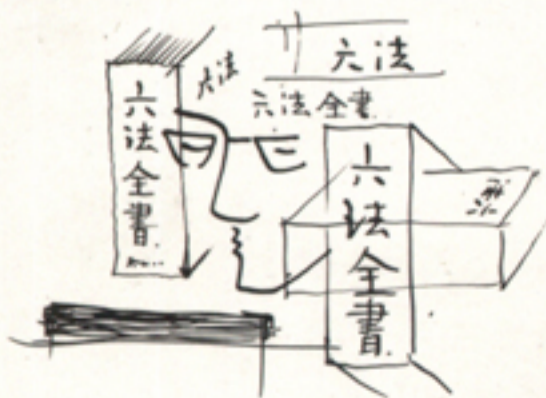
室谷ゼミナール



喜多ゼミナール



木部ゼミナール



喜多先生渡米送会会場
 喜多先生渡米送会会場
 喜多先生渡米送会会場



教務部



法社 緑丘會 人團

就職の見通し
道内會社には六割決定

就職見通しは三月末迄に決定するものと見られるが、道内會社には六割決定するものと見られる。これは、道内會社の就職見通しは、三月末迄に決定するものと見られるが、道内會社には六割決定するものと見られる。これは、道内會社の就職見通しは、三月末迄に決定するものと見られるが、道内會社には六割決定するものと見られる。

専攻科三年卒業生
出願要項

入試要項

出願要項

専攻科三年卒業生
出願要項

入試要項

出願要項





想い出の海の色かな

校庭の午後のしじまを

緑濃き草にまろべば



竹友会



藝名披露
過去多志性
柳許披露
與許
見友喜子
三浦尚子
笹田美子
羽角文志
初許
佐藤美子
高野晴子
高野睦子
後藤純子



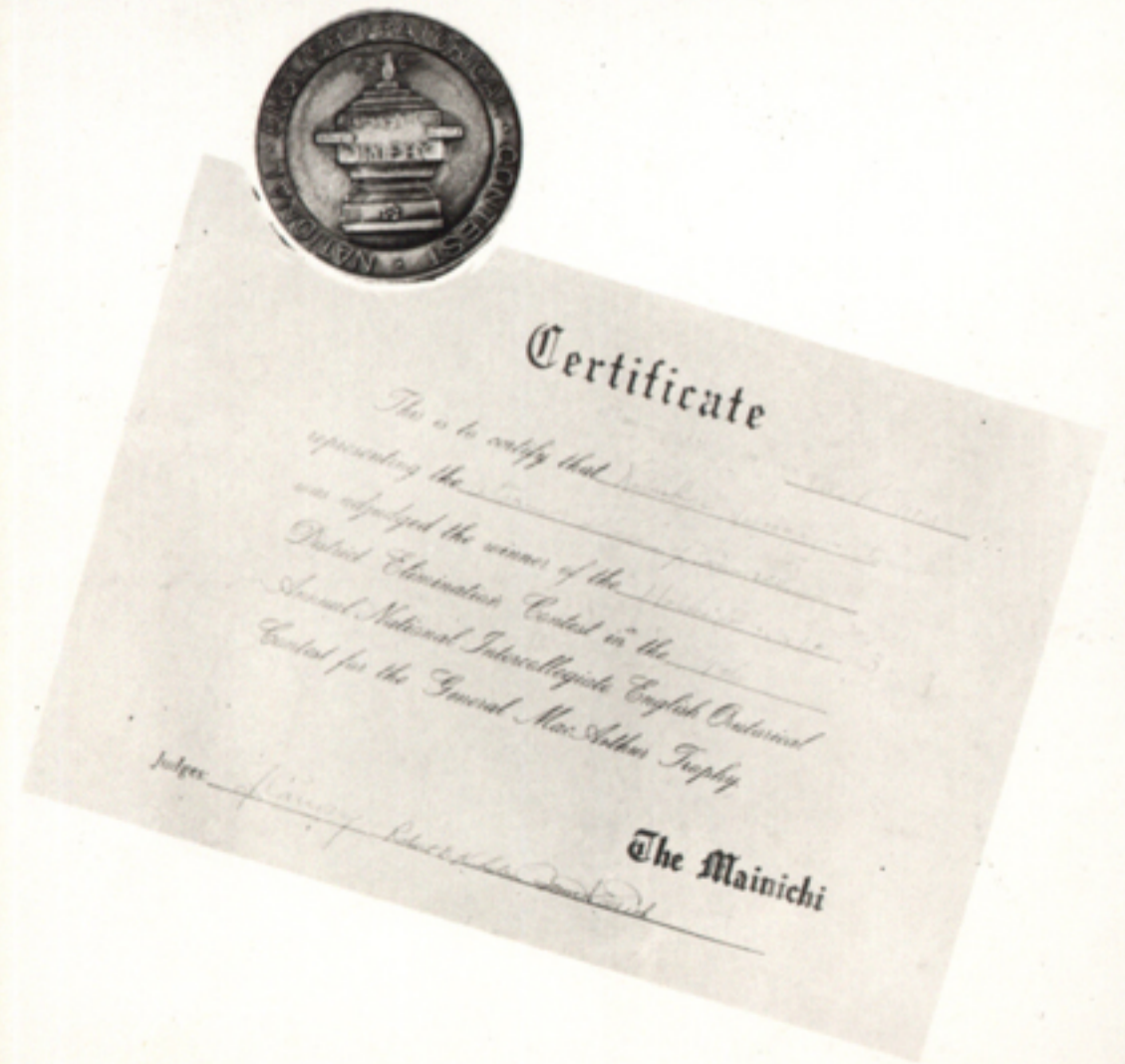
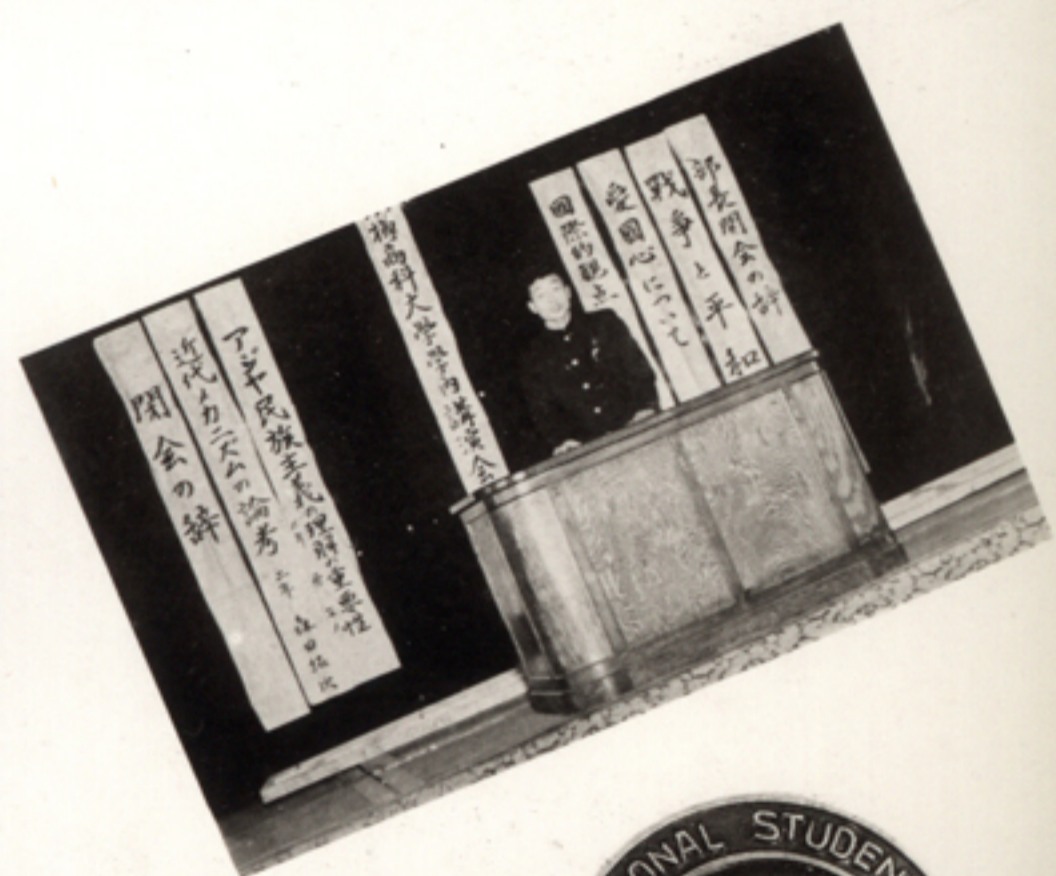
音楽部



小梅ブレイク
ソサエティー



再び兵器を造るな
 日鋼争議におけるインテリ達
 組合員の絶望は固い
 生きるため「團結の巻」はあらゆる壓迫をねがえしている



英語部



カメラクラブ



聖書研究部



哲学研究部



映画部



夕鶴公演の折

演劇部

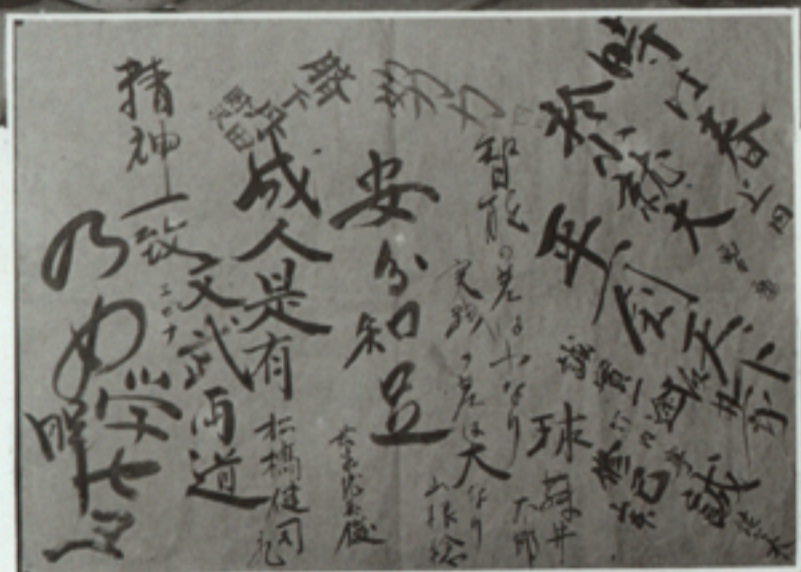


囲碁同好会





弓道部



松橋四段
宮城三段



柔道部



龍球部





山岳部

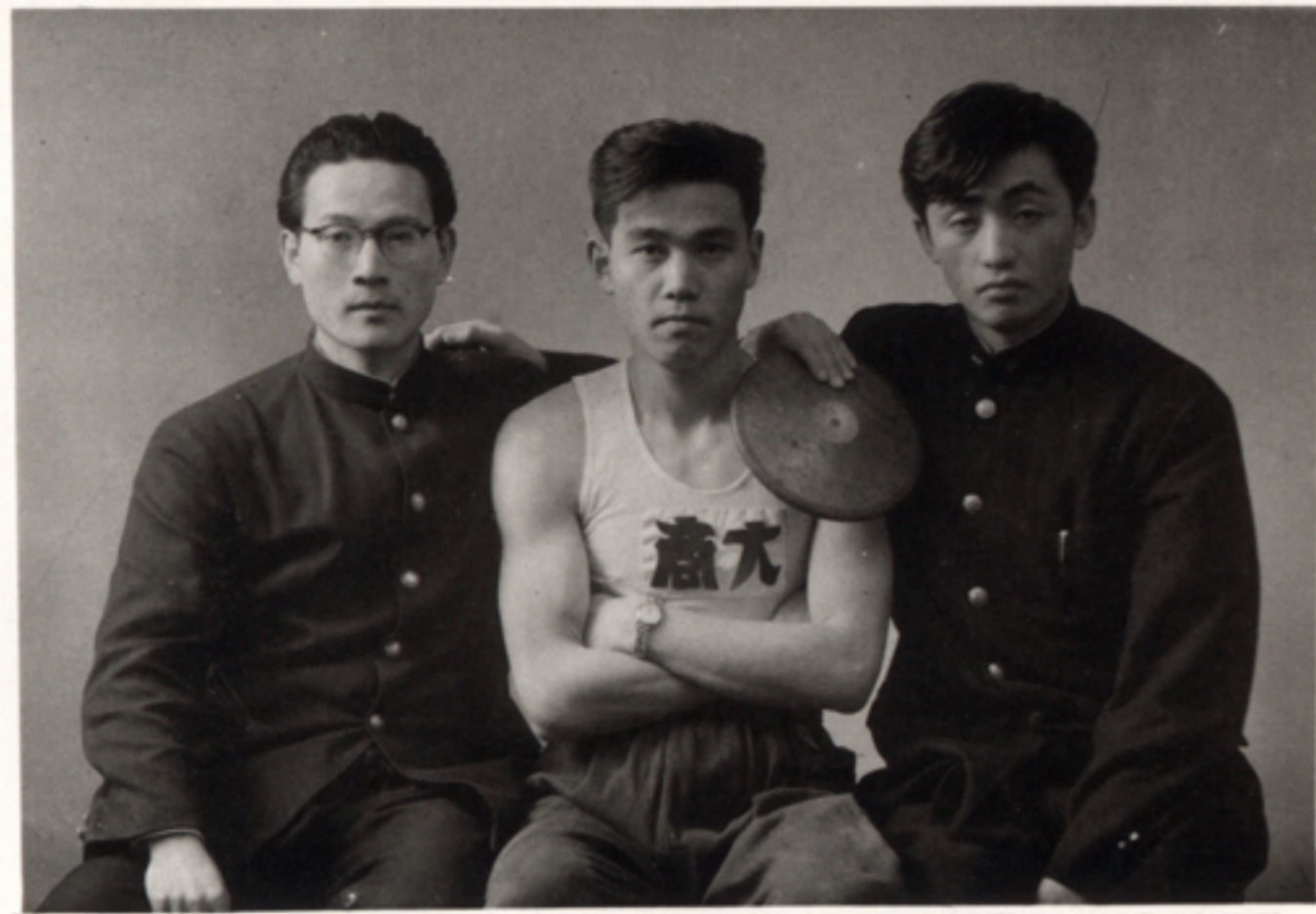


ラグビー部



野球部





陸上競技部



硬式庭球部



軟式庭球部



バレー部



卓球部



フランス語劇



ドイツ語劇



日本語劇



中国語劇



スペイン語劇





スキー部



ボート部



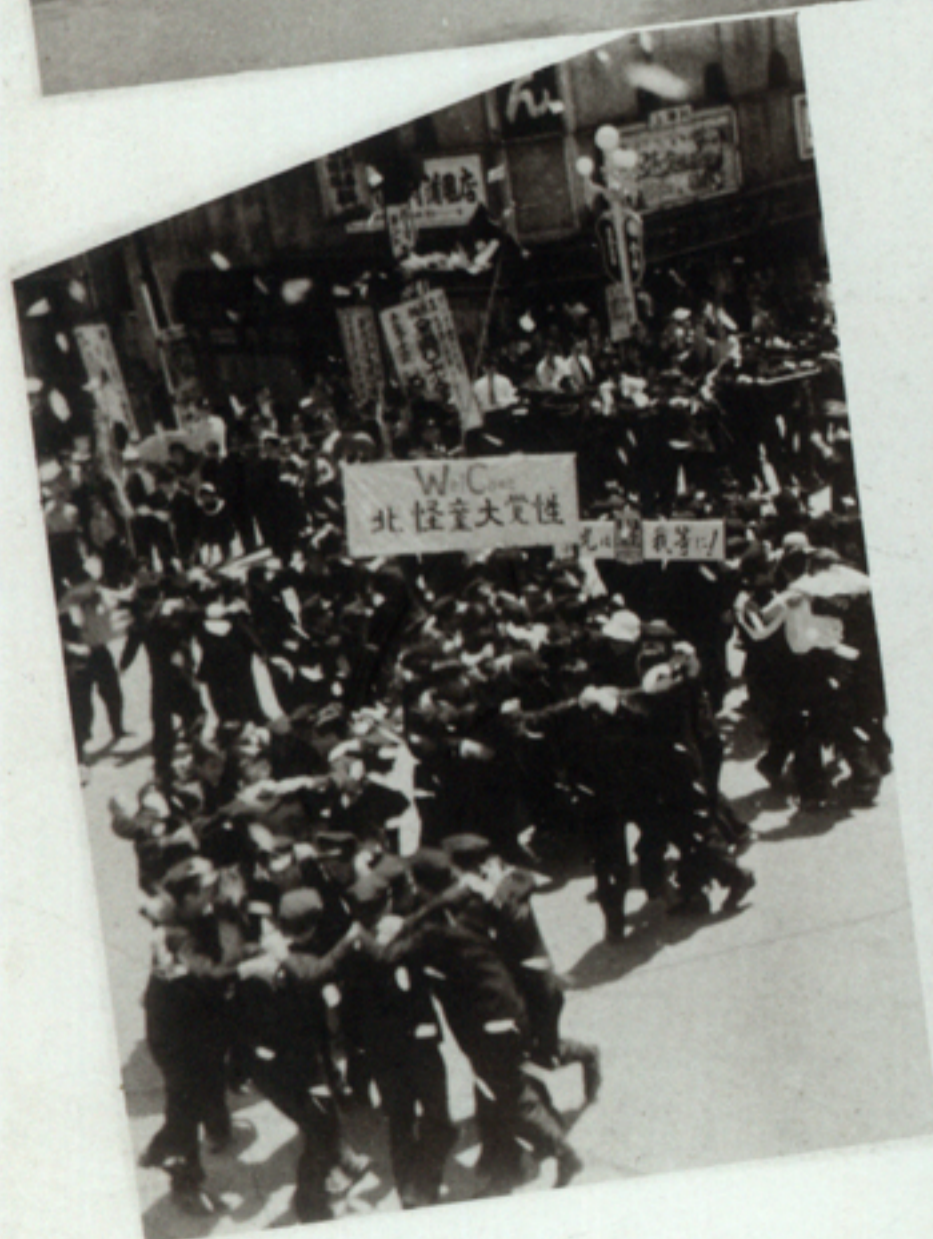
ヨット部



戰北大SS大商樽小



前越三





学長一等賞



園遊会

スナップ集



ヨーク考えて!



ドテラストーム





人生は
腹の
解けた
文行寮士よ

代償として
人の生命は
鎖と奴隷
購買ひ得
貴重
昭和
愛はすべての



三寮

千歳鶴
日本清酒株式会社



一寮



四寮

Go for break!

貴様が生きていくのと同じ程の
死の可能性のありさを知ること
夏一ヶ月の自然は必然として我々の
心的追体験の限界は既に越えられた

然るにその目的を達成し、
偉大な突破を遂げ、
従って目を奪っていった



二寮

寮生活
のぞき見

主義をすてよ

平よりも一層深刻にしてきてい
強みを増して十一月初旬現在
の左翼を通つて、まづ市大の
ないようだ。

小樽市には情愛らず大会
てが、学生の間に情愛らず大会
小樽市を離れようとする者が多い。尤
本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生

本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生

本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生

本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生

本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生
本誌はあつて、一応定めた生



自治庁 抗議デモに三百八十名参加

市選管態度變えぬ

市選管の態度が、学生を小樽に
在任の一般入居に扱つ、従つ
て学生のみ特別の措置をしない
二、自治庁の態度は、市選管
三、市選管の態度は、市選管
四、市選管の態度は、市選管
五、市選管の態度は、市選管

自治庁の線をまげず

自治庁の線をまげず
自治庁の線をまげず
自治庁の線をまげず

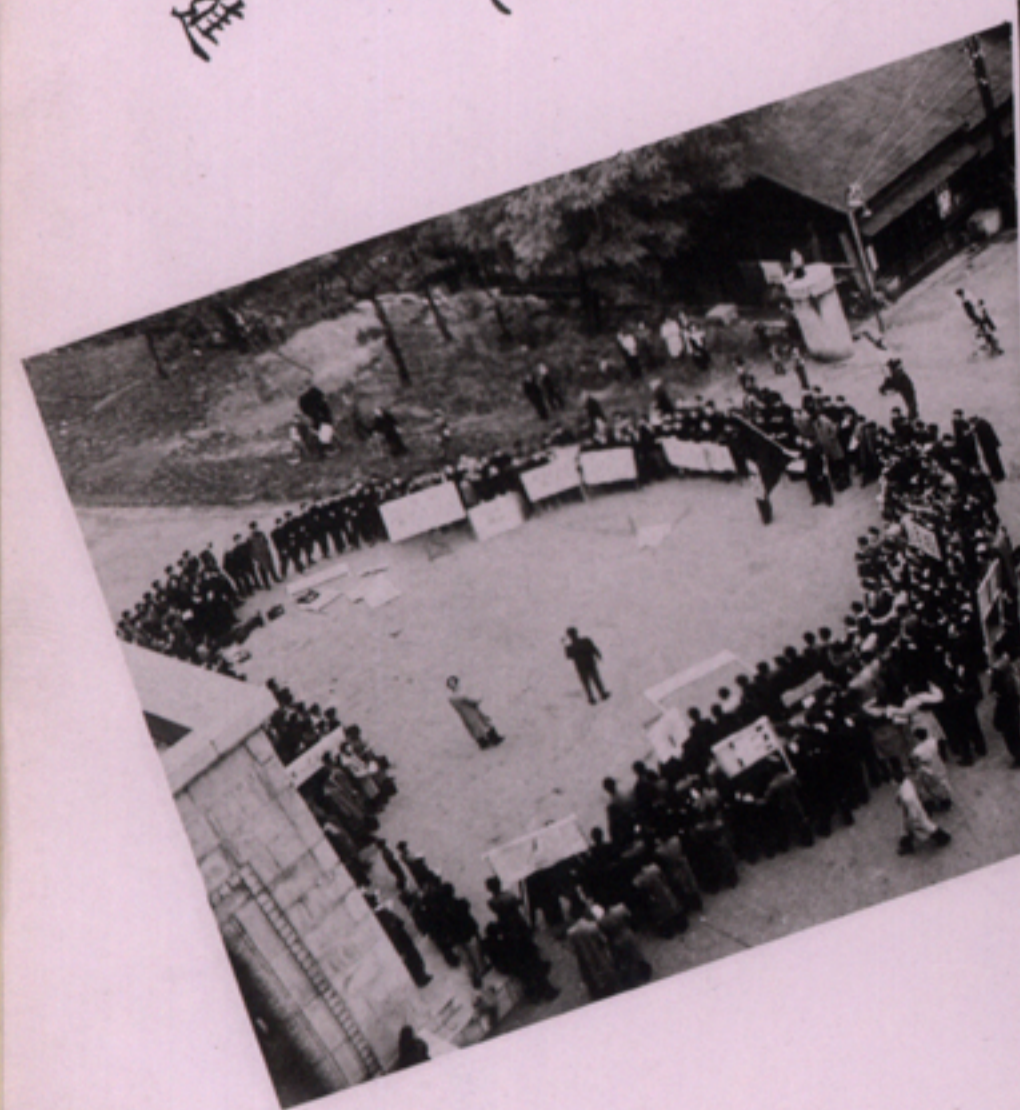


署名運動

署名運動
八千三百九十六名
十月二十一日以来、市内四ヶ所で
各々によつて行われていた署名運
動は、十月三十日、一斉に切られ
たが、予定数の七千名を越え、
八千三百九十六名に達した。



小樽市
の中心
を
なす
べき
は
市民
の
力
だ



経済視察旅行



出発

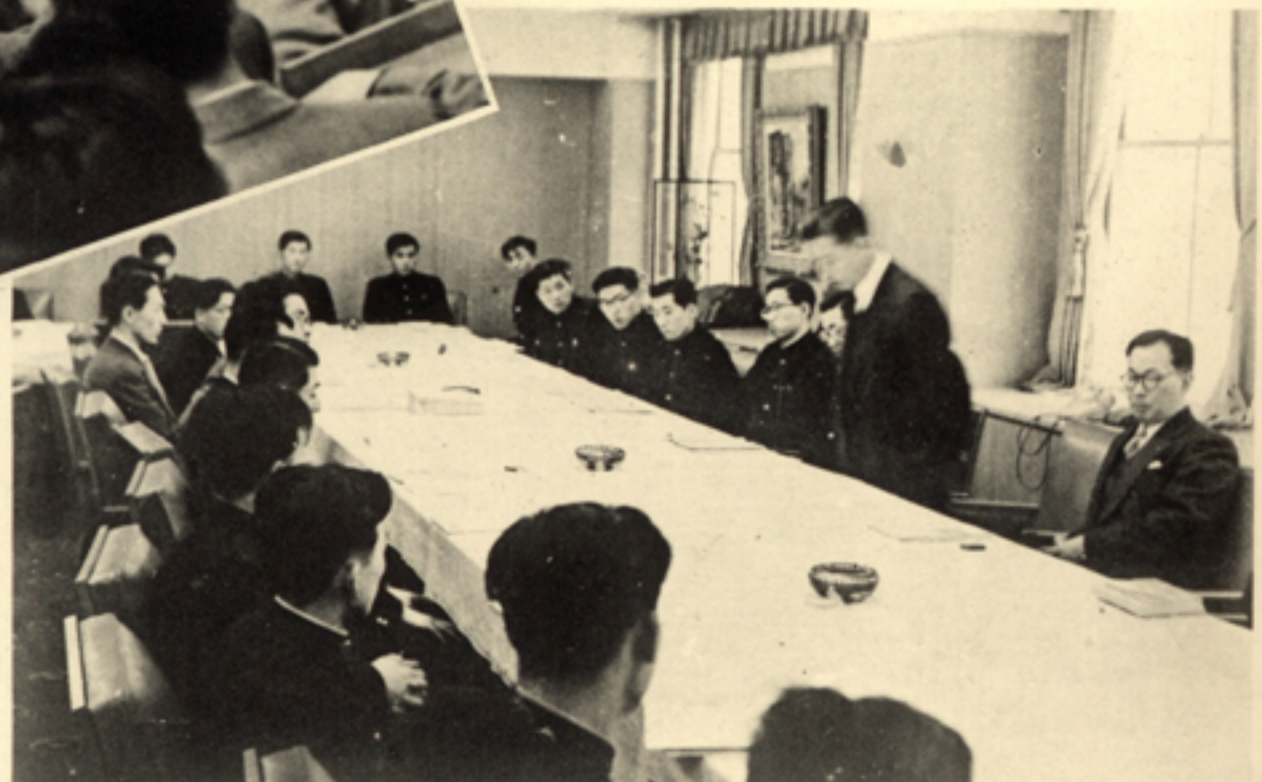


東京証券取引所



五十鈴自動車工場

日興証券にて



宮城前にて



大阪城天守閣より望む



東京証券取引所にて

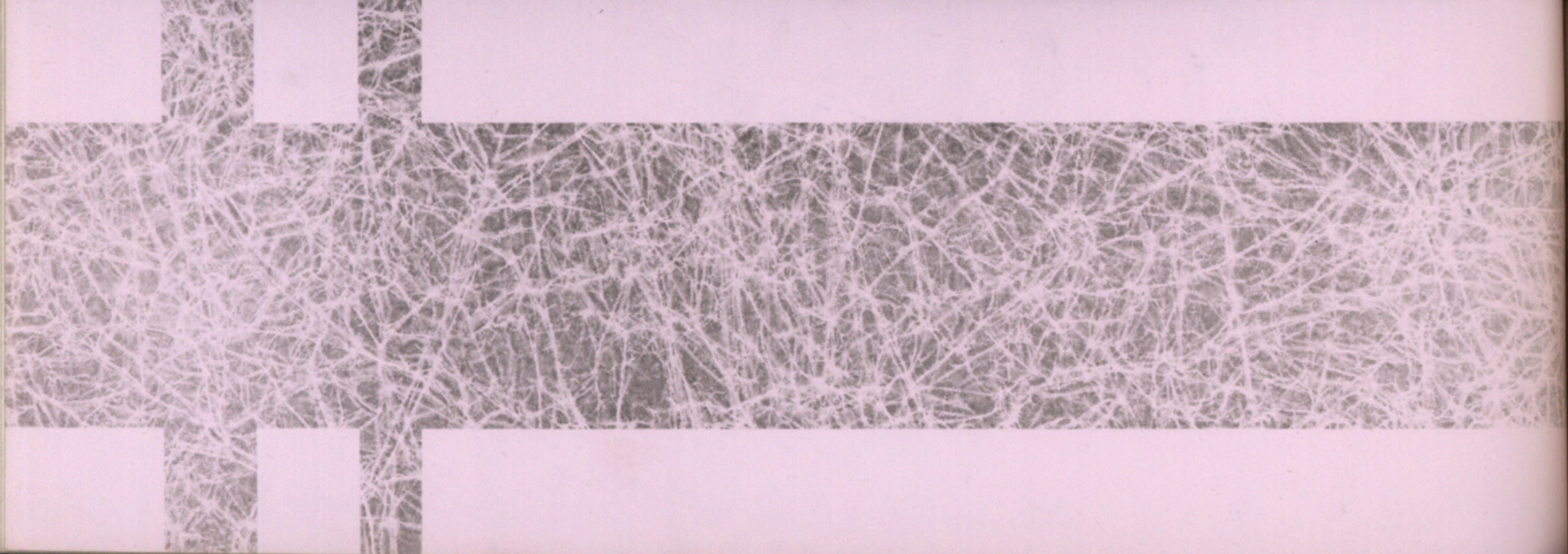
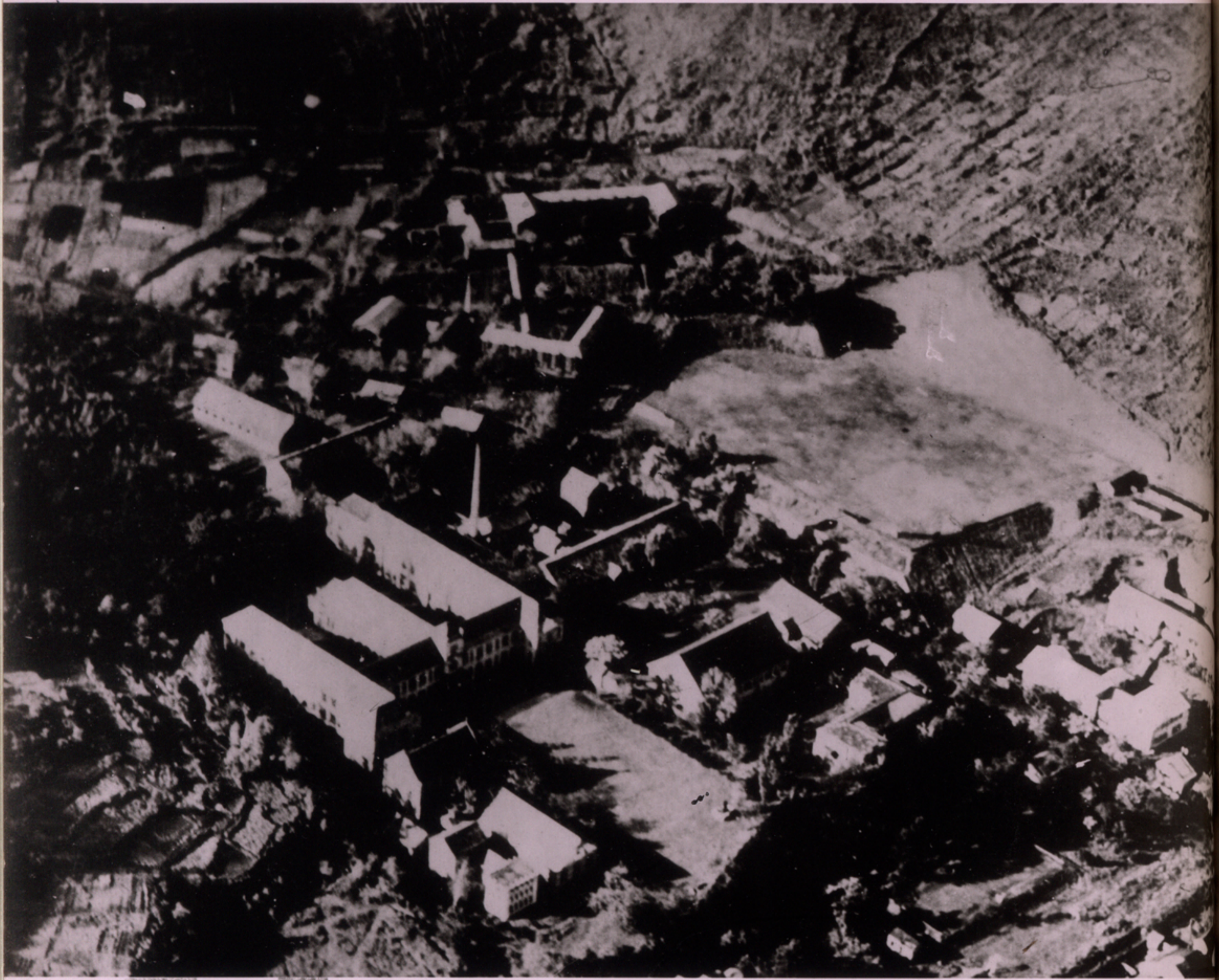


国会議事堂前



東芝見学







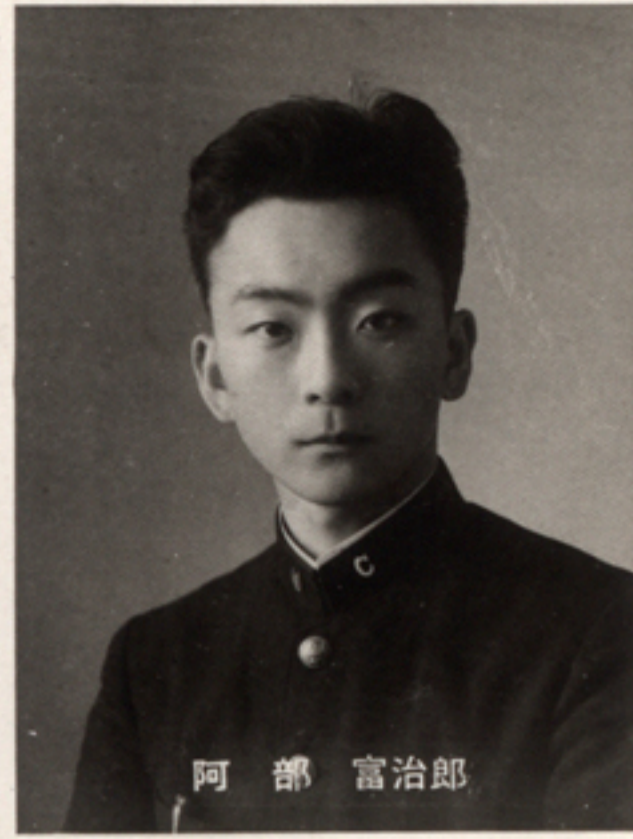
青山光雄



阿久津昭夫



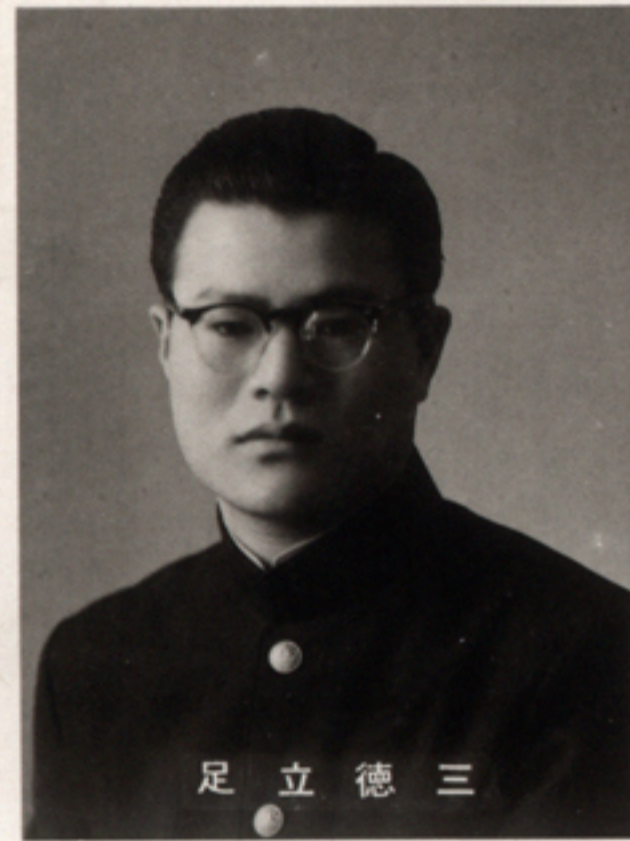
阿部昭



阿部富治郎



江川勝治



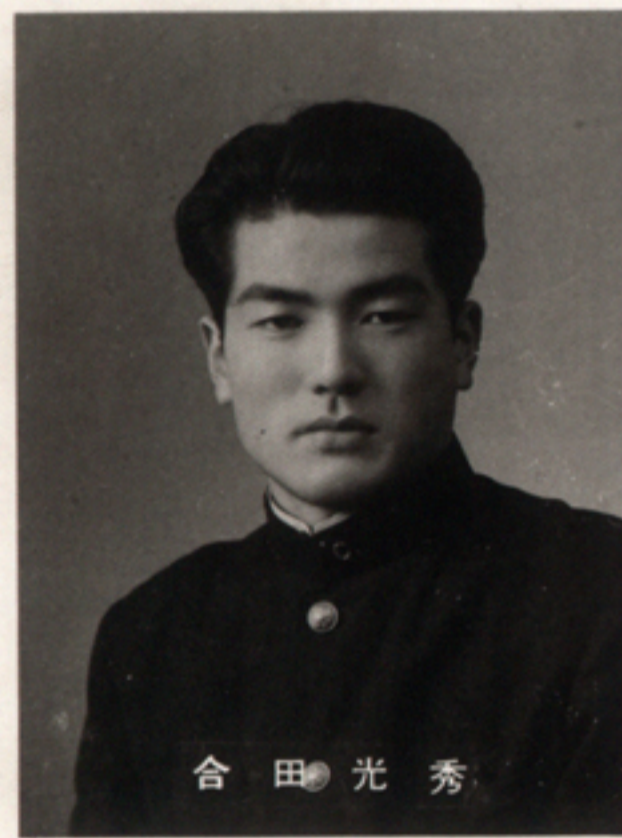
足立德三



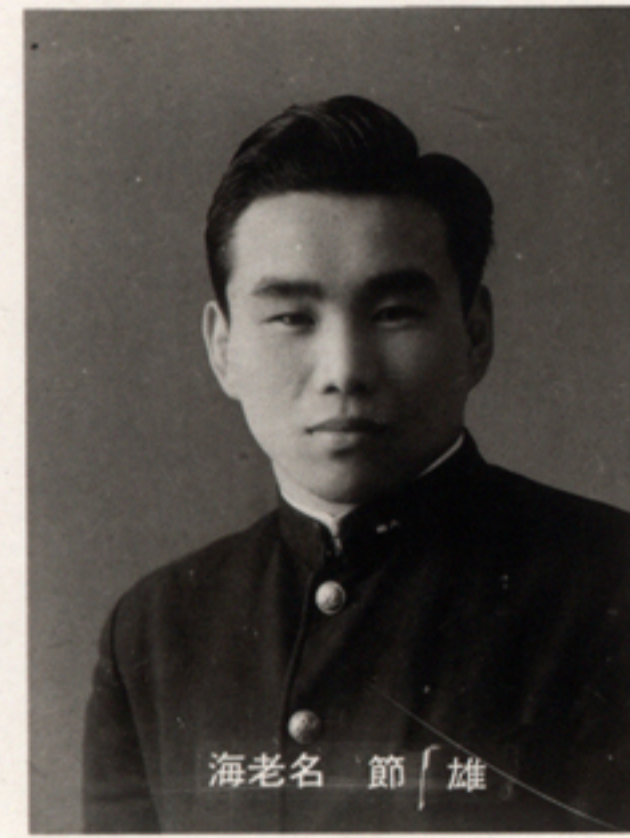
明石健司



荒井良雄



合田光秀



海老名節雄



橋本曜

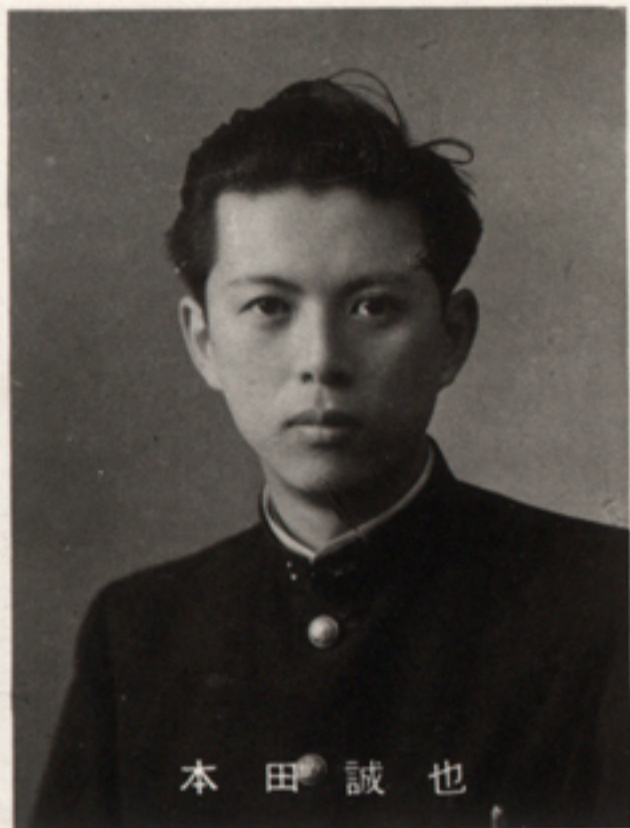


早川治男





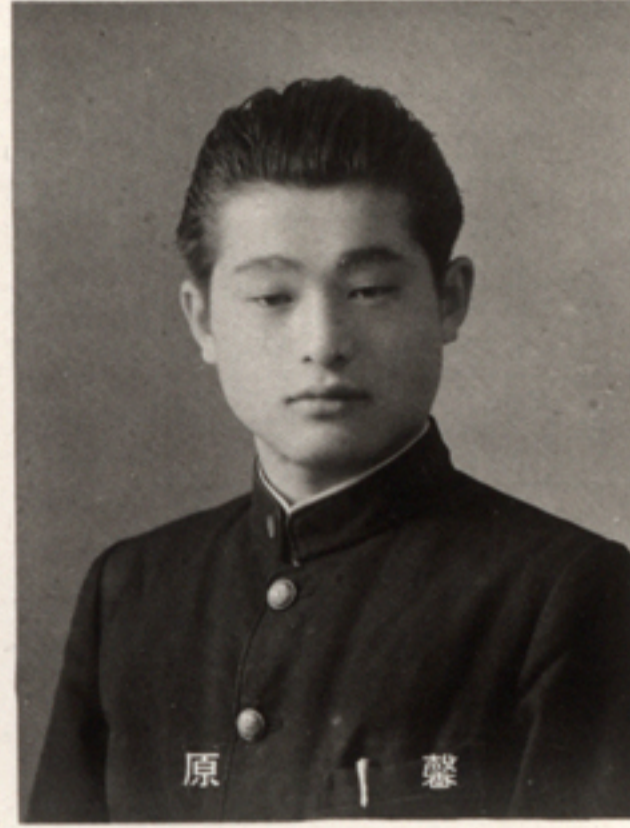
廣安博



本田誠也



林一郎



原馨



藤本順子



藤井秀美



樺口克己



日高一雄



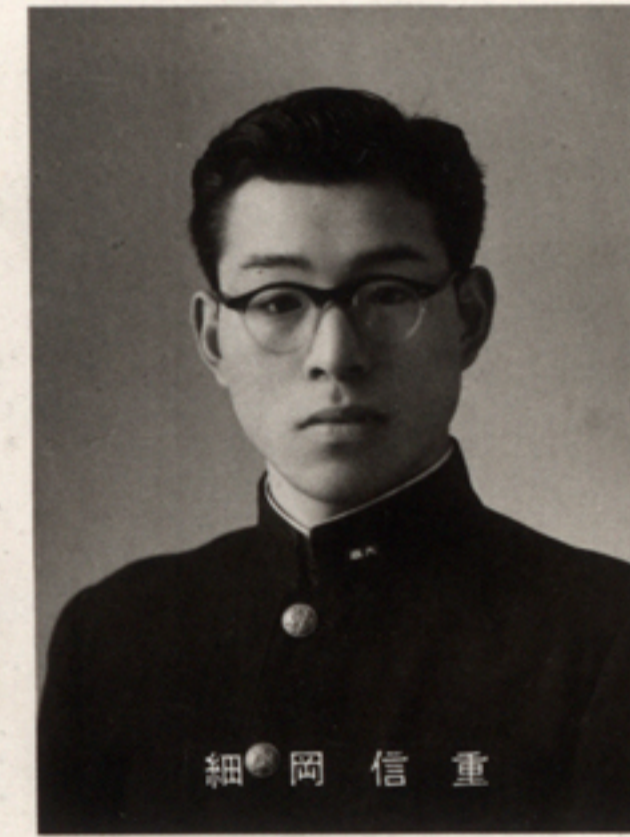
石田善一



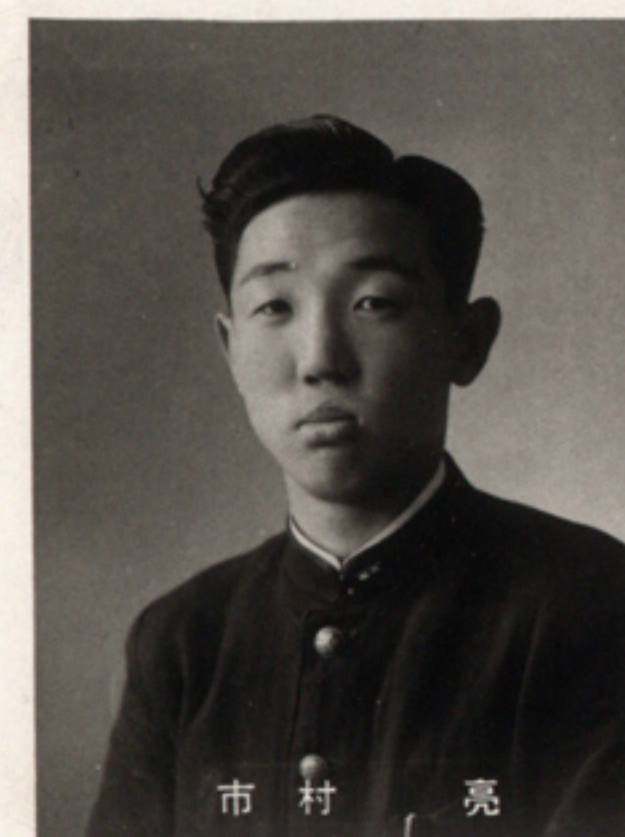
石井彰



石田恭敏



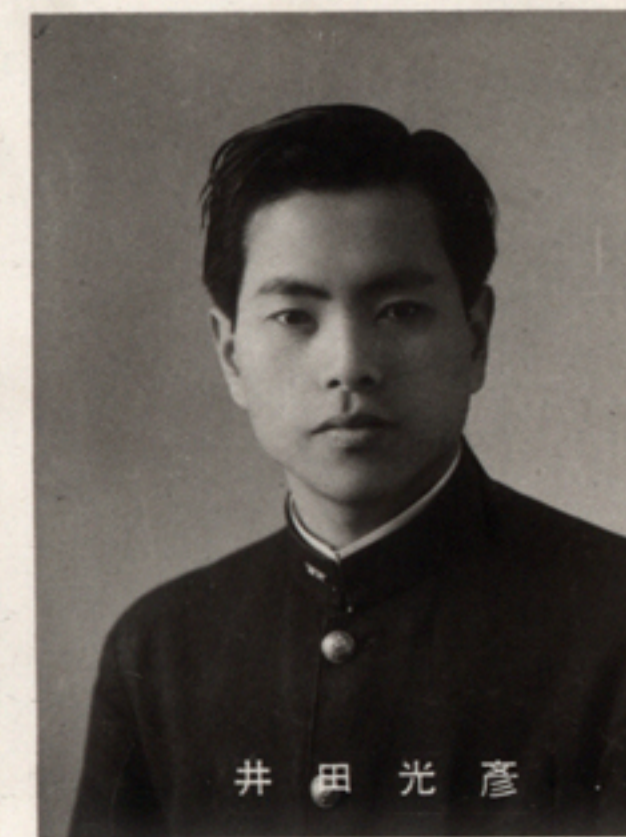
細岡信重



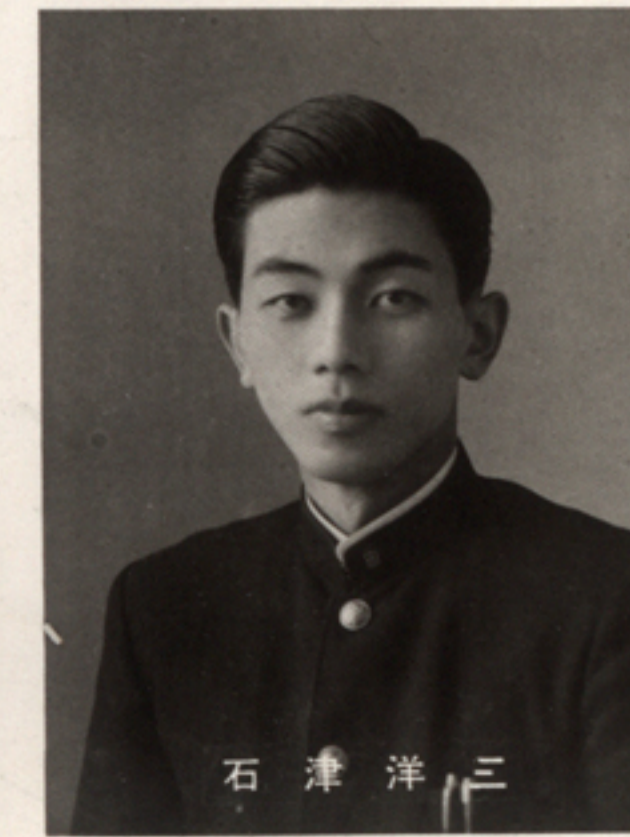
市村亮



今本三郎



井田光彦



石津洋三



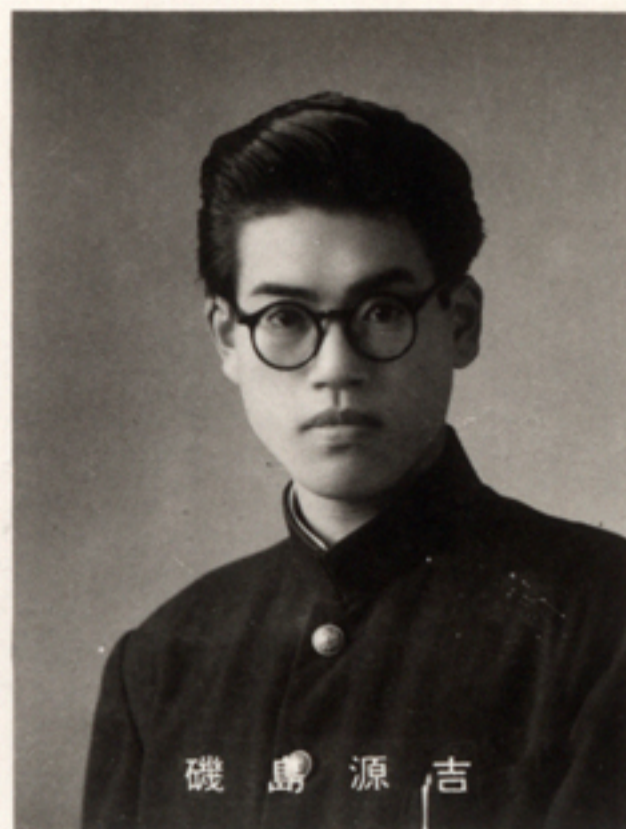
加藤 章



加藤 清二



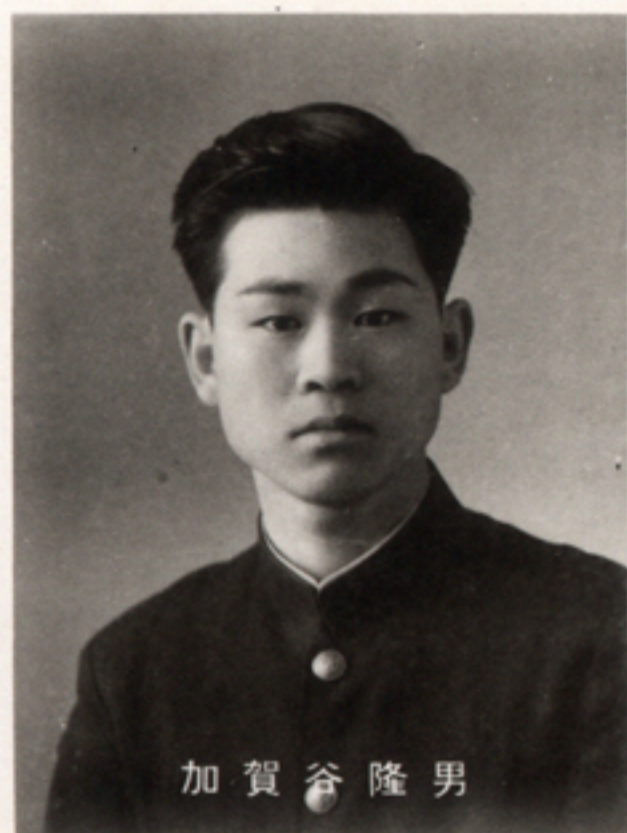
池野 英昭



磯島 源吉



中村 哲



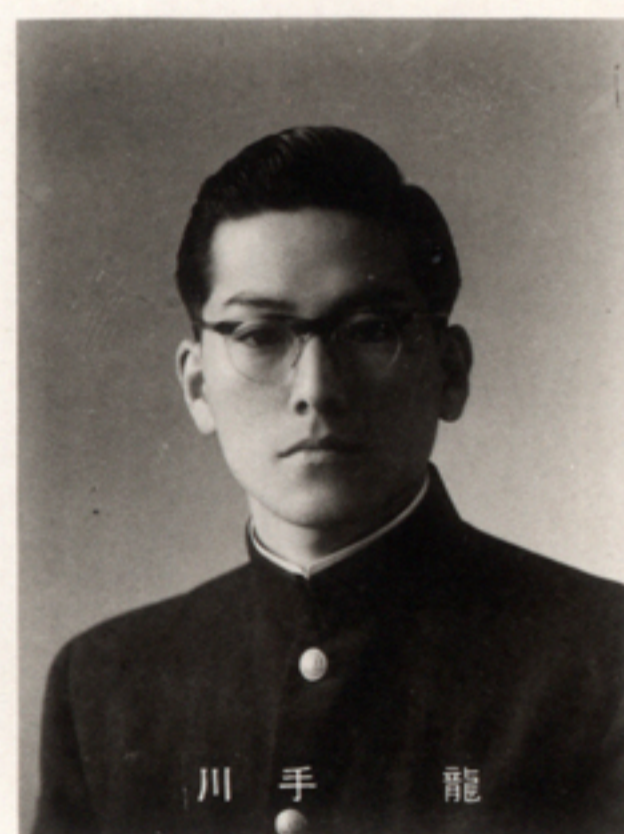
加賀谷 隆男



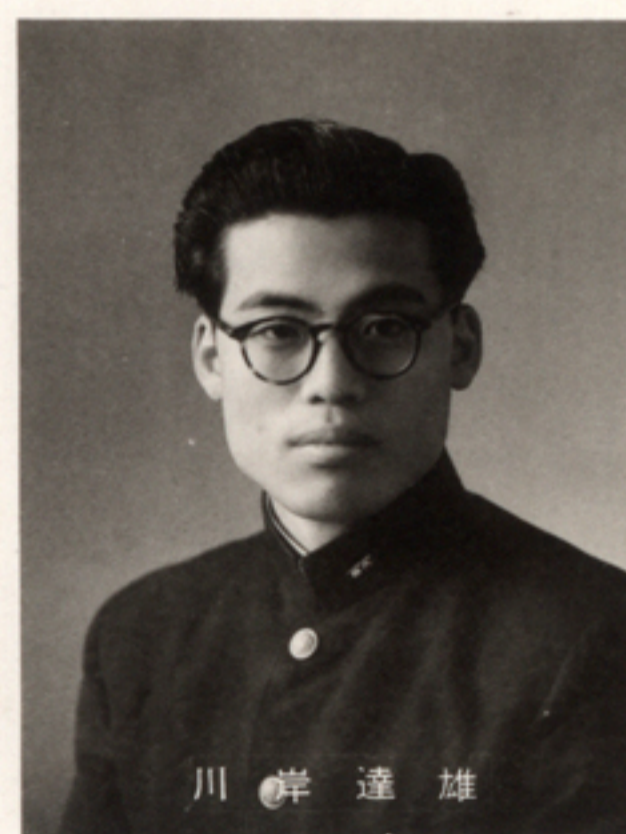
加藤 照彦



加藤 和男



川手 龍



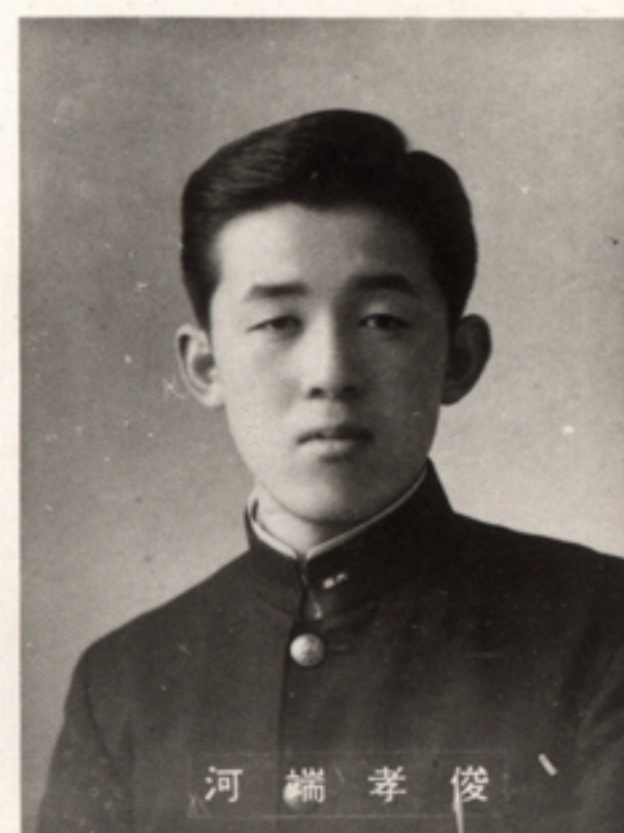
川岸 達雄



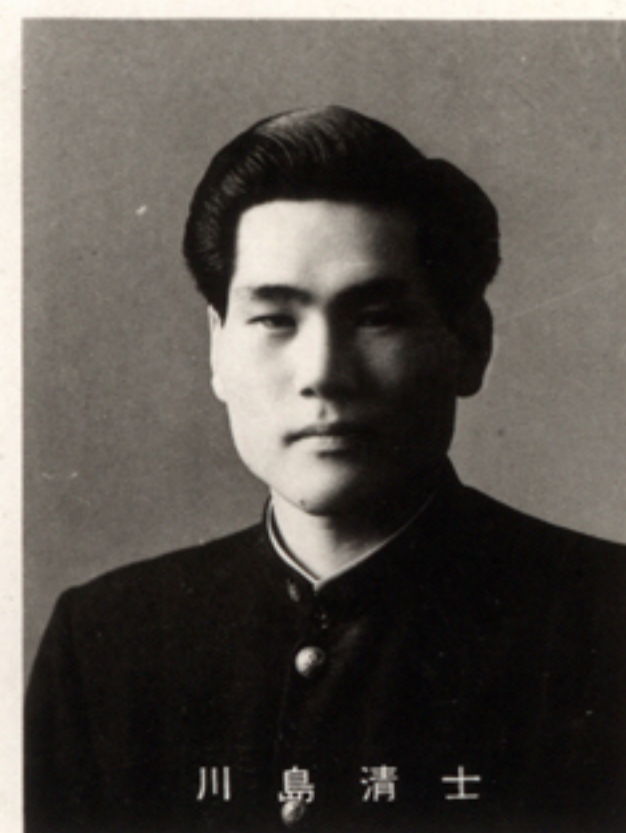
川西 利男



河端 洋



河端 孝俊



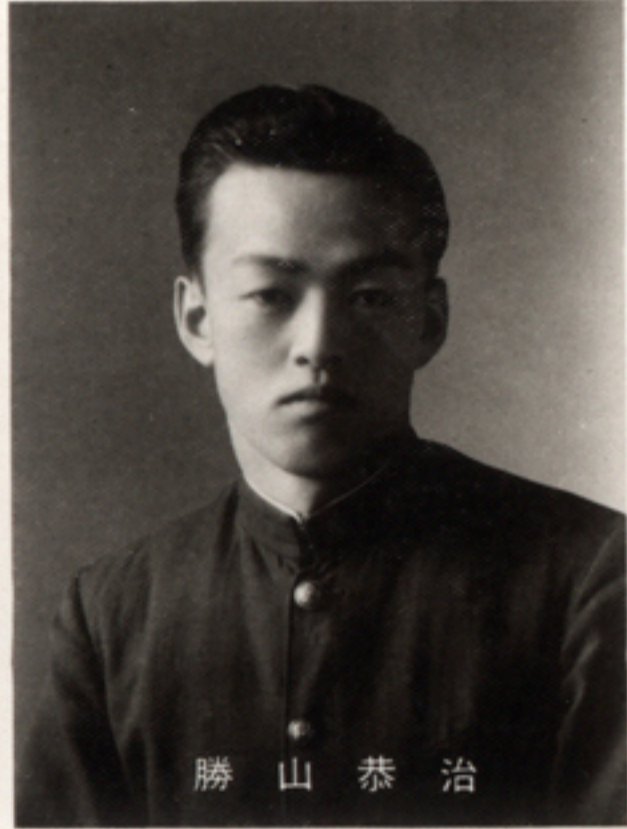
川島 清士



鍵谷安雄



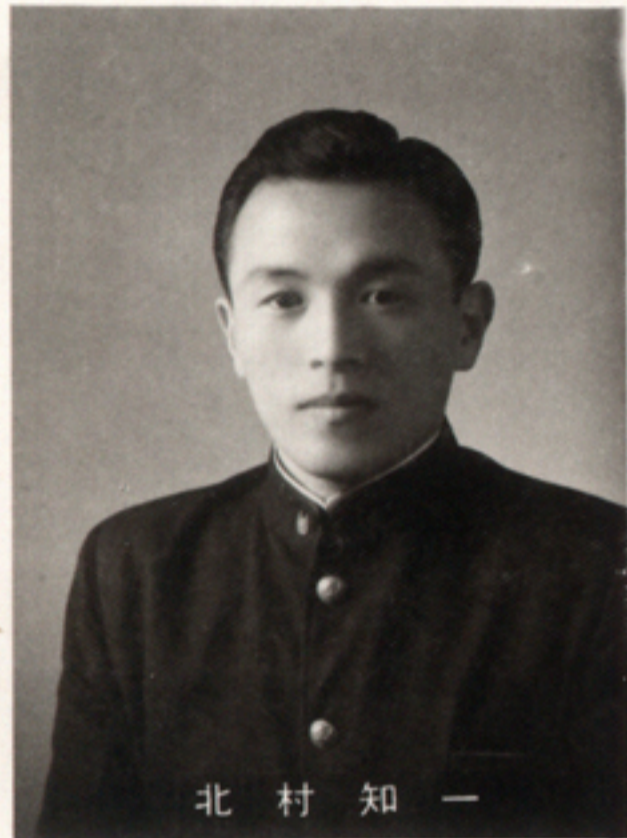
嘉野実



勝山恭治



柿崎勇



北村知一



葛西貢一



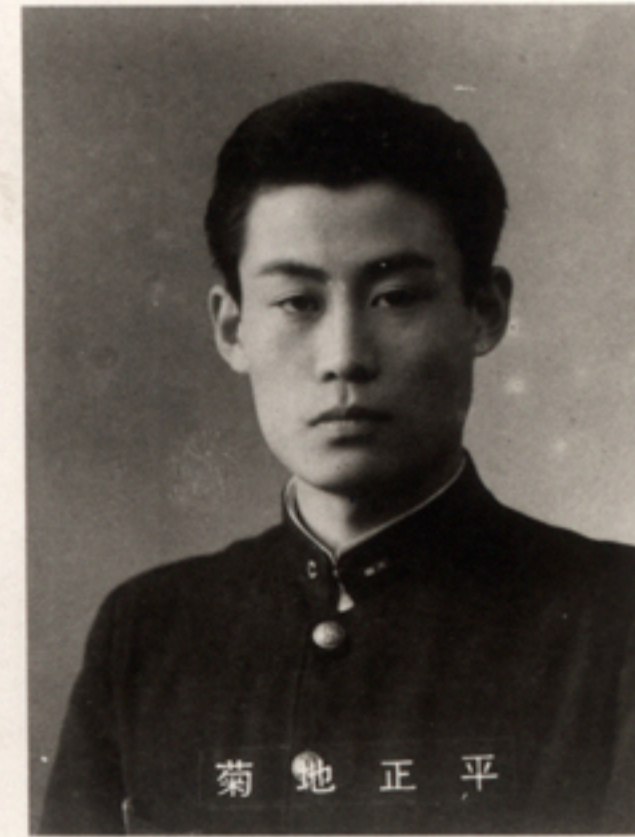
工藤 彰



木戸喜一郎



木村憲郎



菊地正平



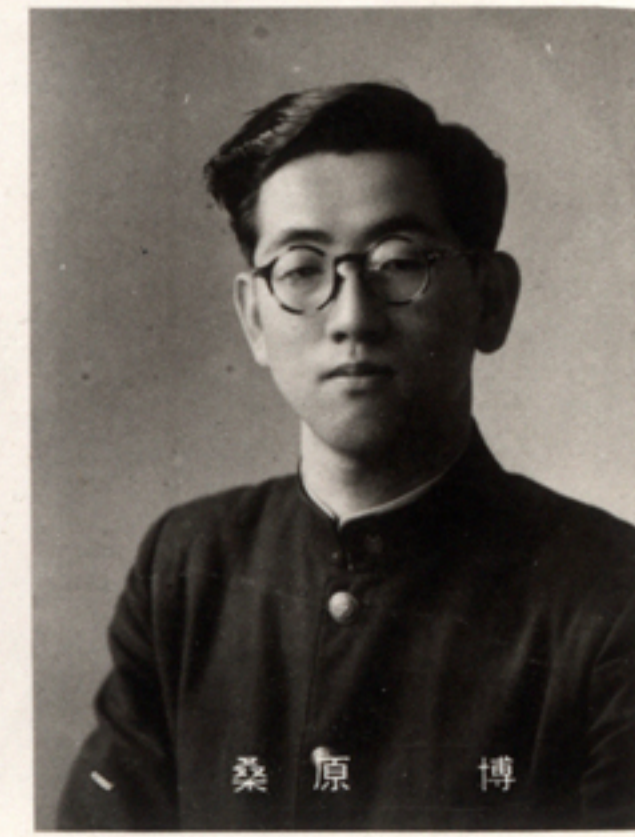
工藤敦夫



熊谷 功



草野徹哉



桑原 博



小泉 旭



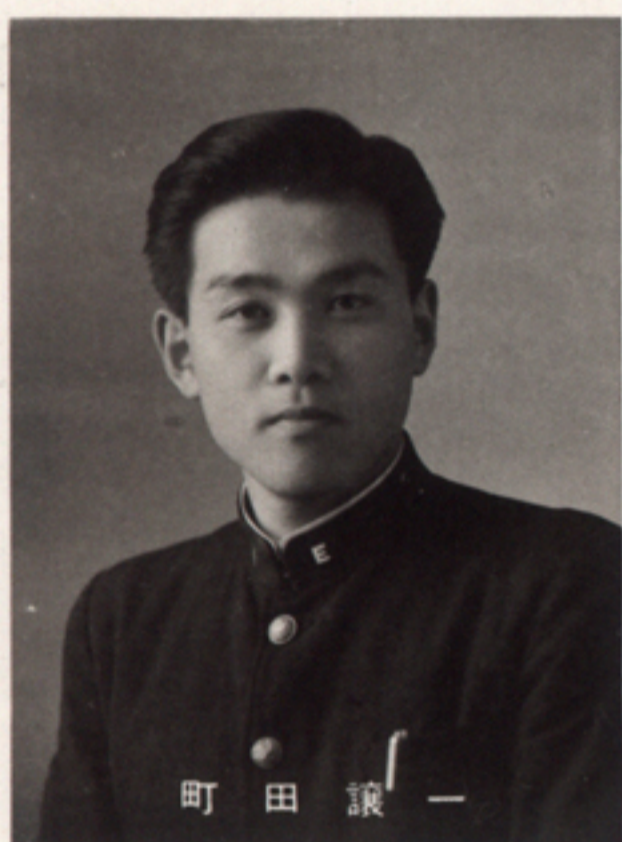
小松 輝夫



小堀 真三郎



剣物 治郎



町田 譲一



丸山 恵三



香西 敏男



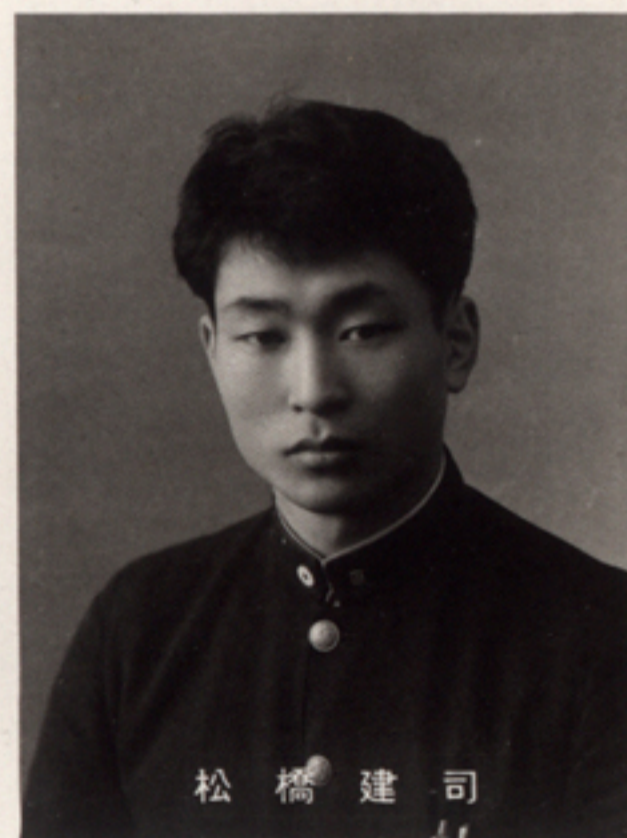
小番 俊信



宮城 敬



三上 利彦



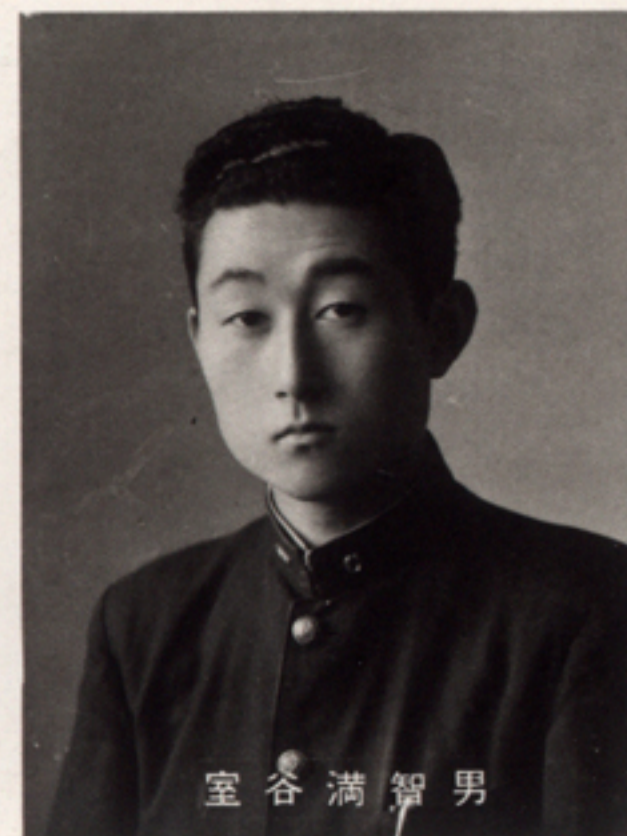
松橋 建司



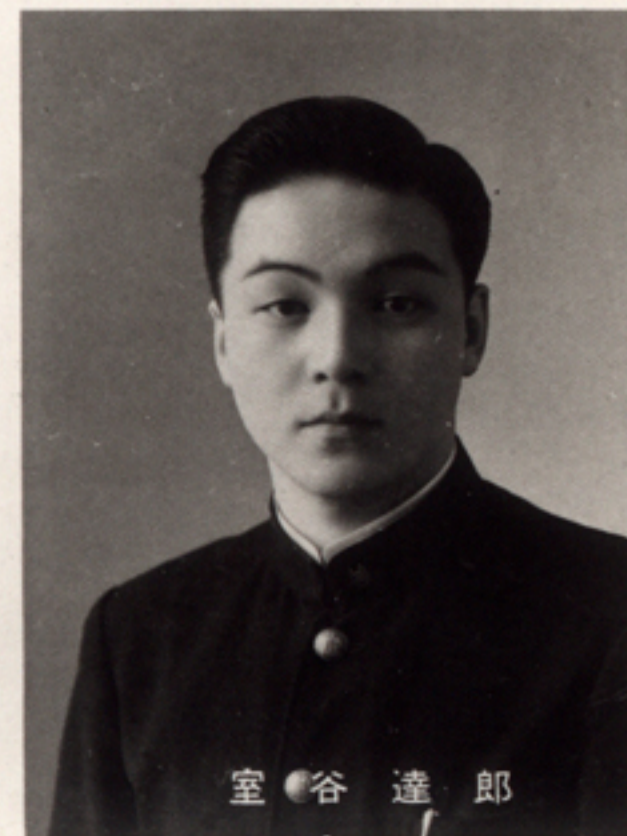
牧野 富夫



村岡 康秀



室谷 満智男



室谷 達郎



宮地 清治



森田 拓次



毛利 治泰



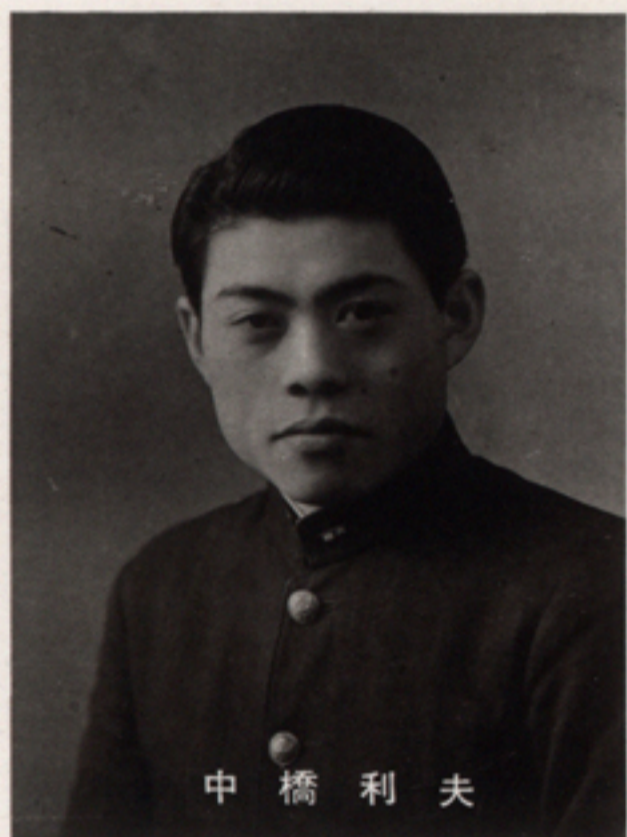
目黒 理



村井 雄三



中内 正明



中橋 利夫



中村 正義



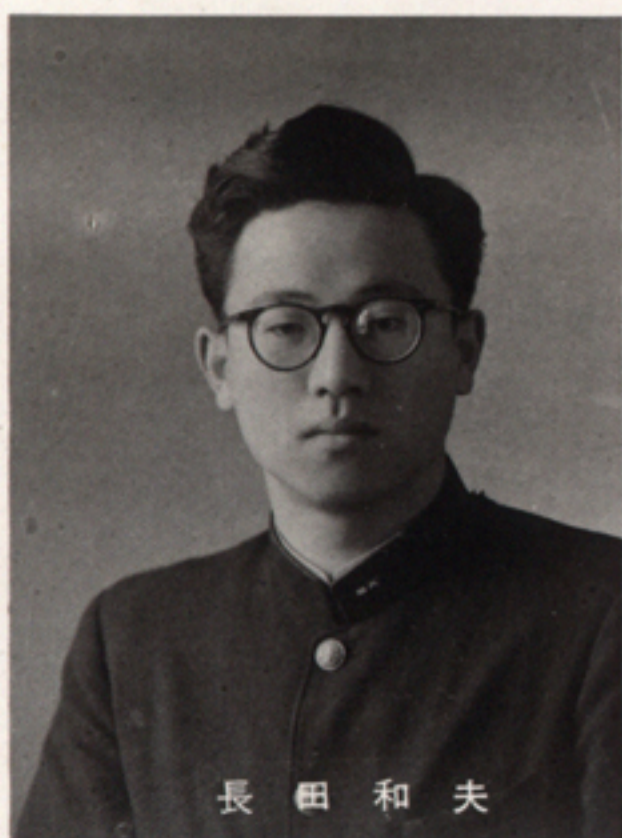
中山 浩



中島 稔



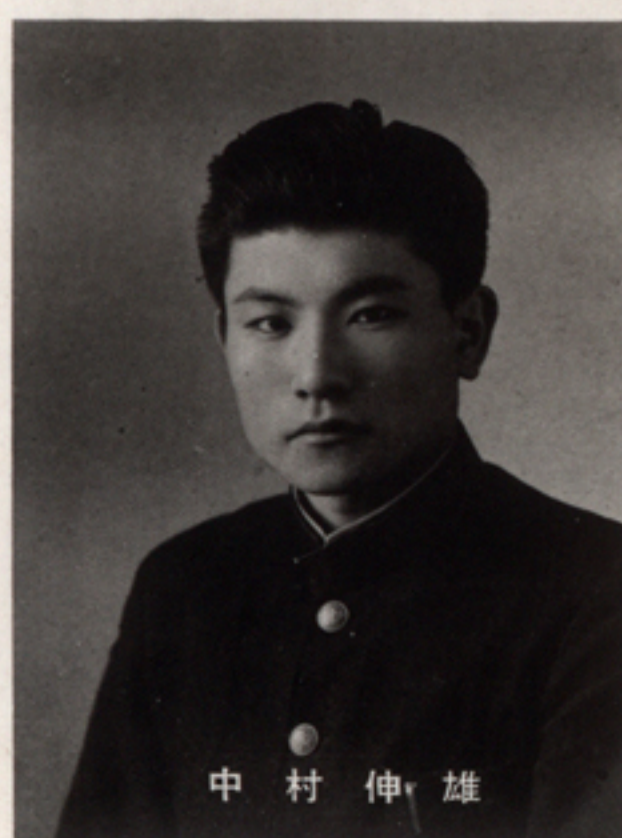
中島 勉



長田 和夫



中村 隆一



中村 伸雄



西田 修



新田 静一



西原 宏



西池 勇



西山 克之



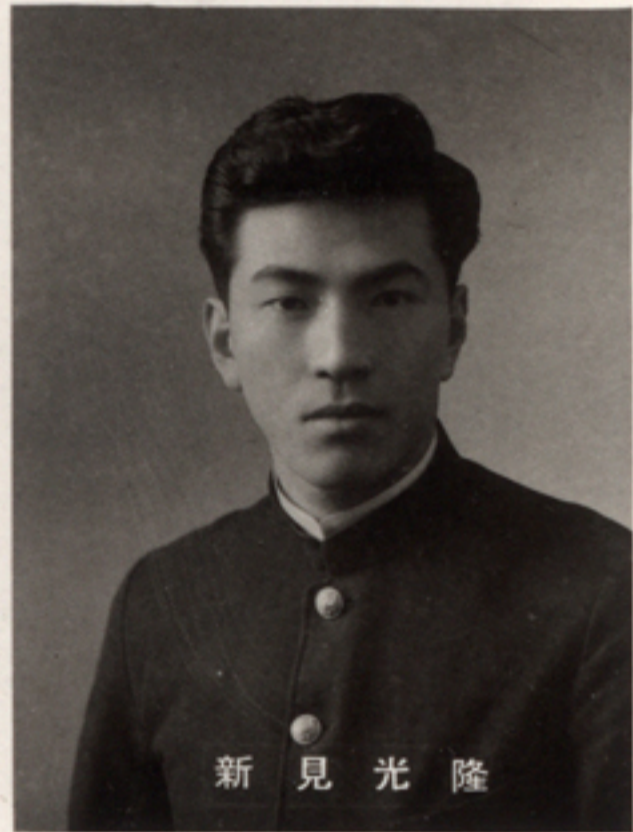
奥野 義夫



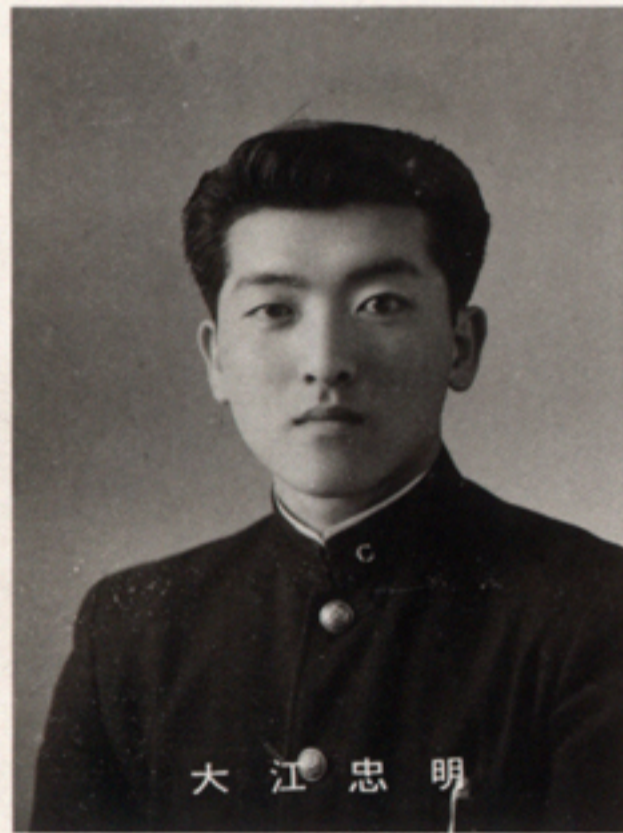
大島 弘之



大島 昭八



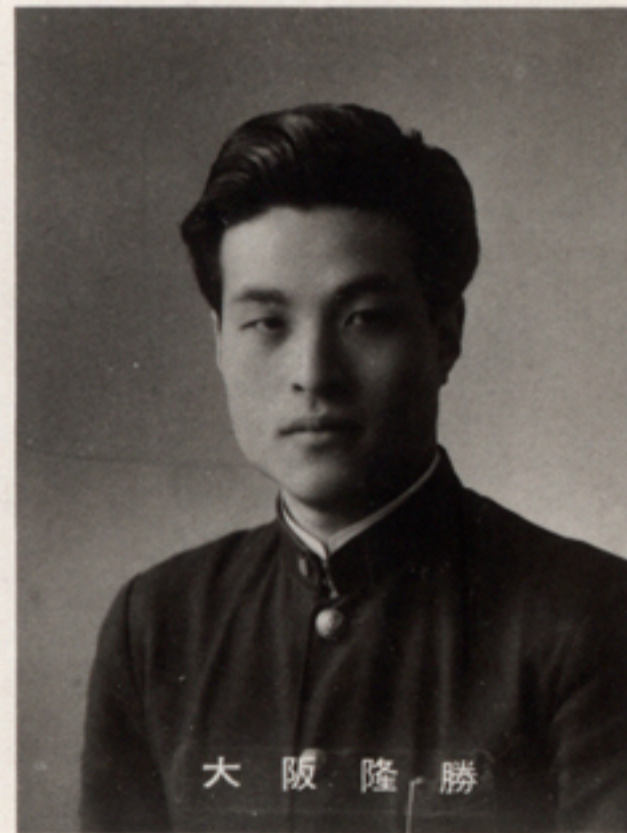
新見 光隆



大江 忠明



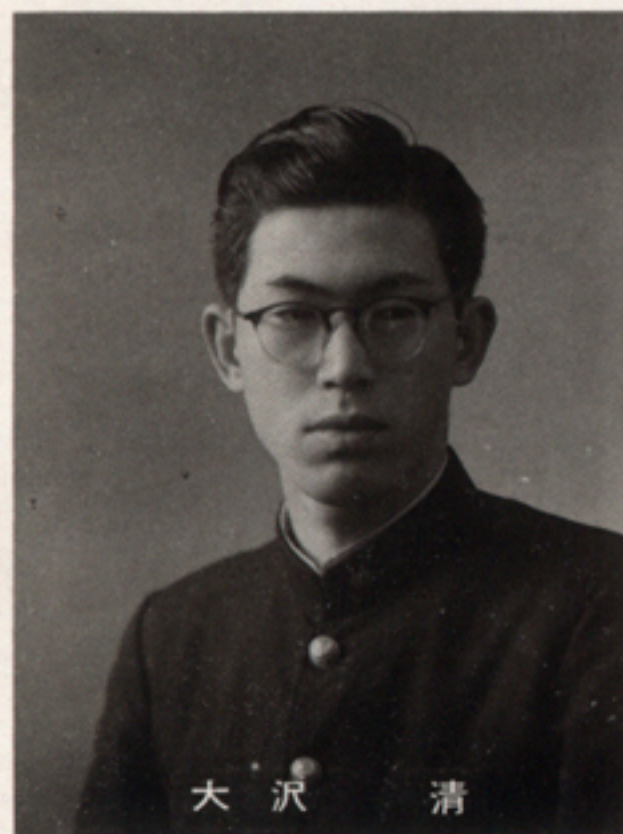
大久保 文夫



大阪 隆勝



大阪 豊正



大沢 清



小川 幸夫



岡崎 仁



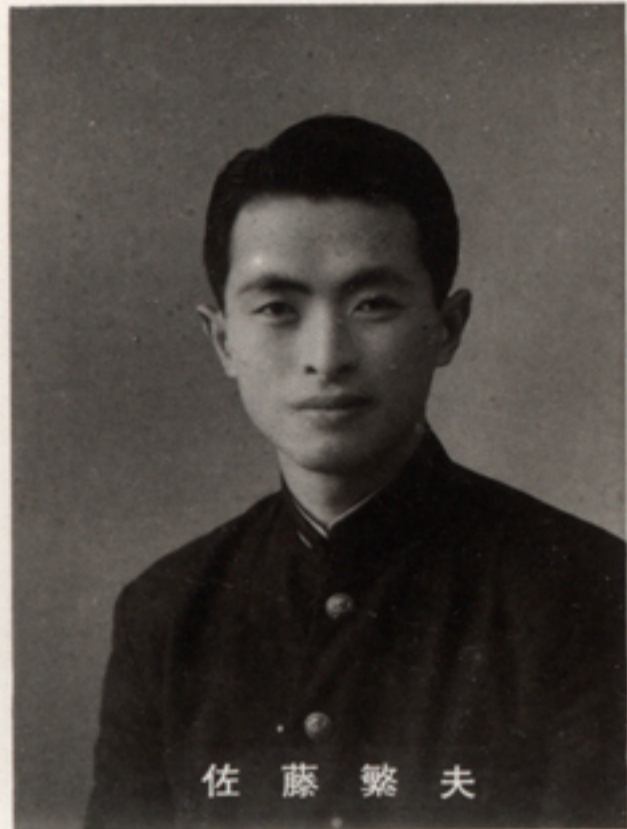
尾形 武夫



佐藤 尤俊



佐藤 一雄



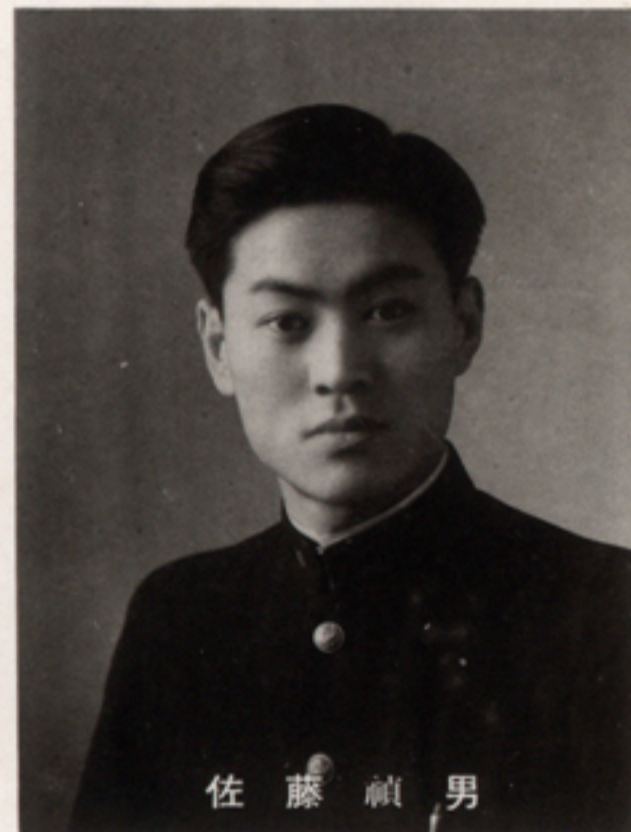
佐藤 繁夫



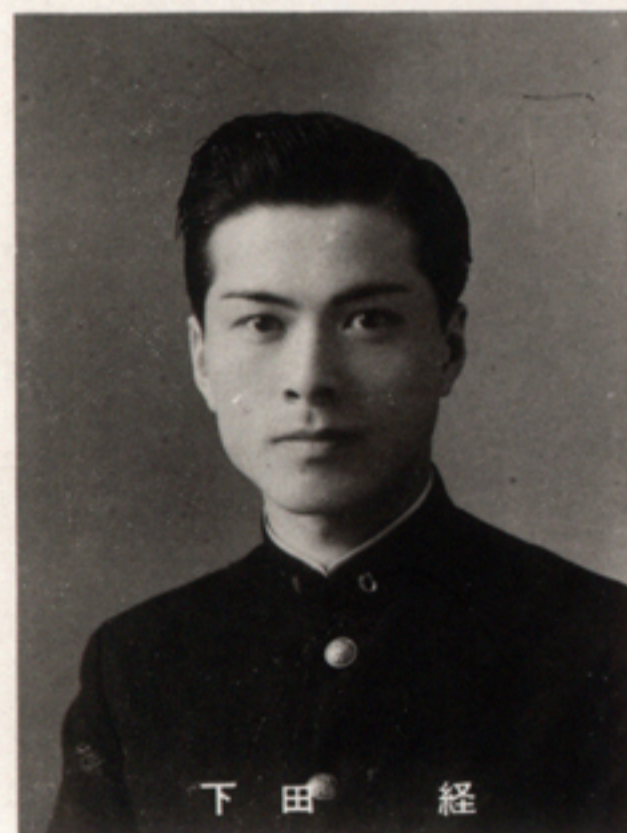
桶谷 拓三郎



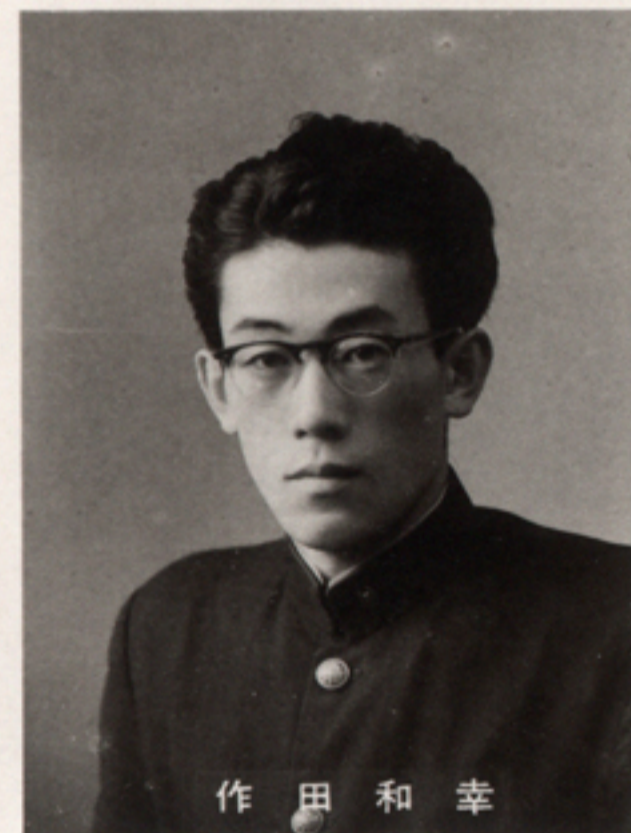
佐々木 利男



佐藤 禎男



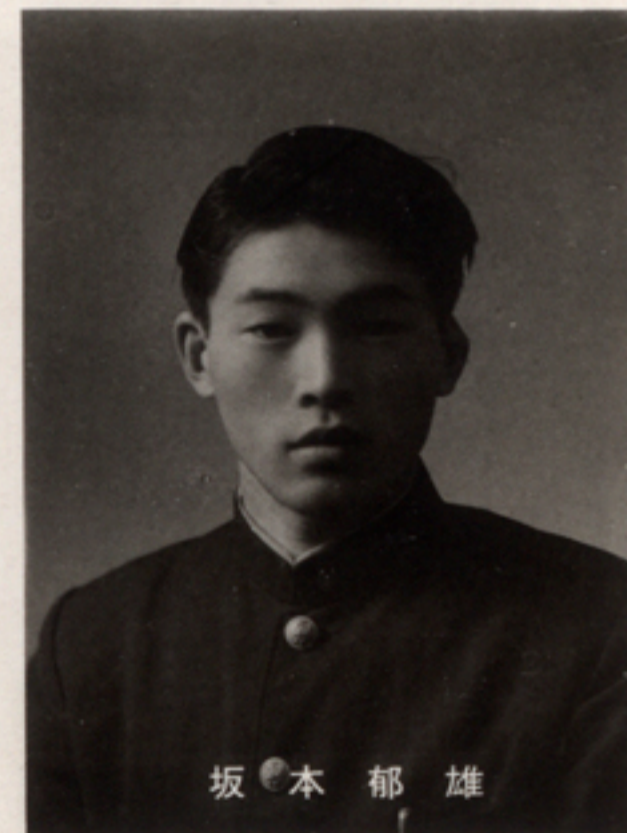
下田 経



作田 和幸



斎藤 隆也



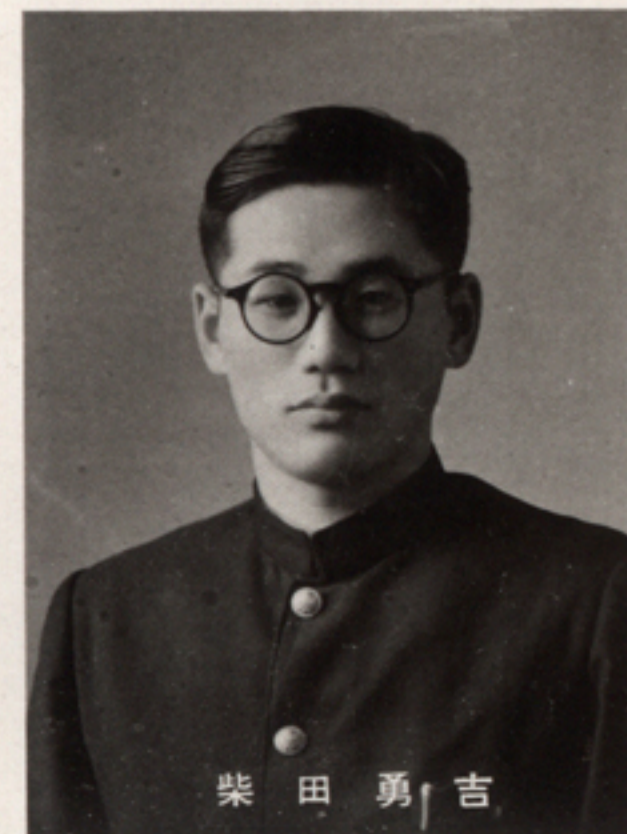
坂本 郁雄



白川 幸男



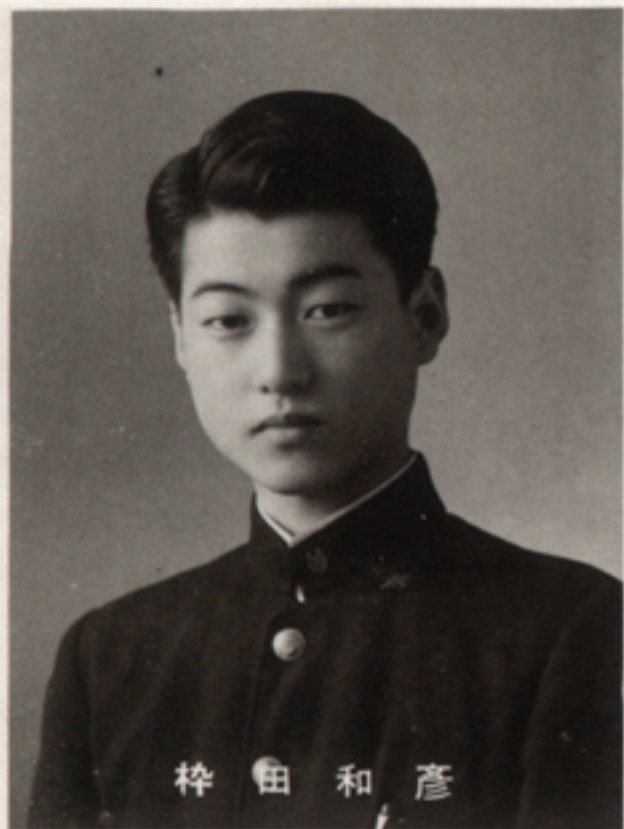
白崎 一二



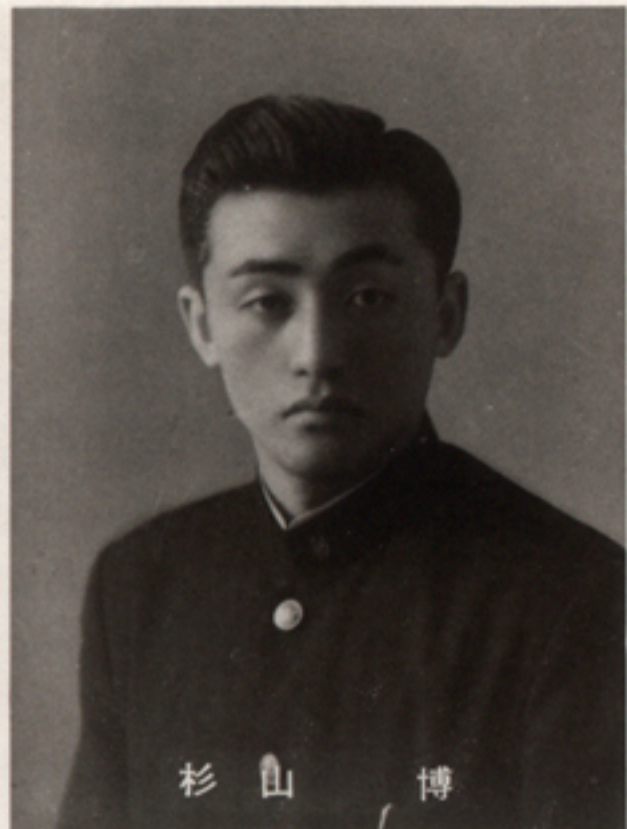
柴田 勇吉



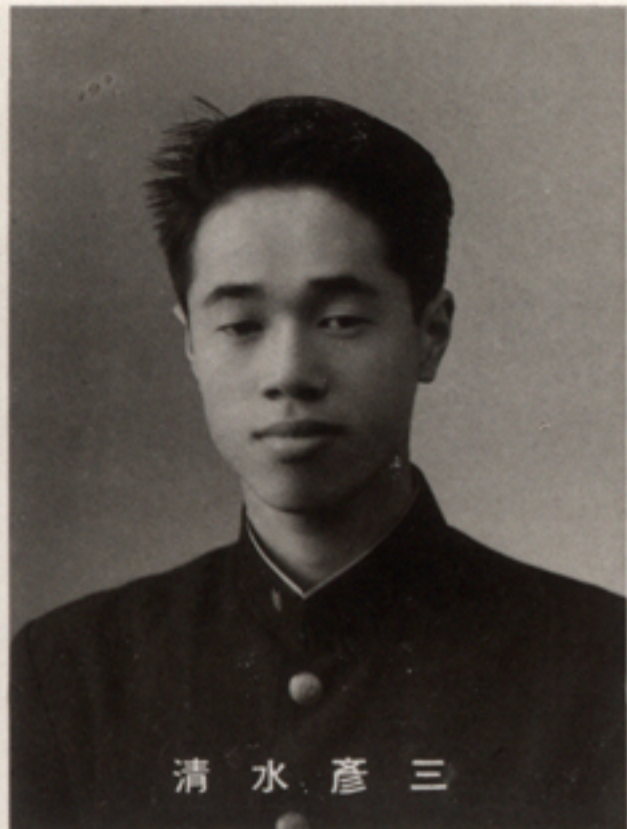
新庄 貞昭



梓田和彦



杉山博



清水彦三



島谷金三郎



高野誠一



鈴木成吾



鈴木博隆



鈴木保男



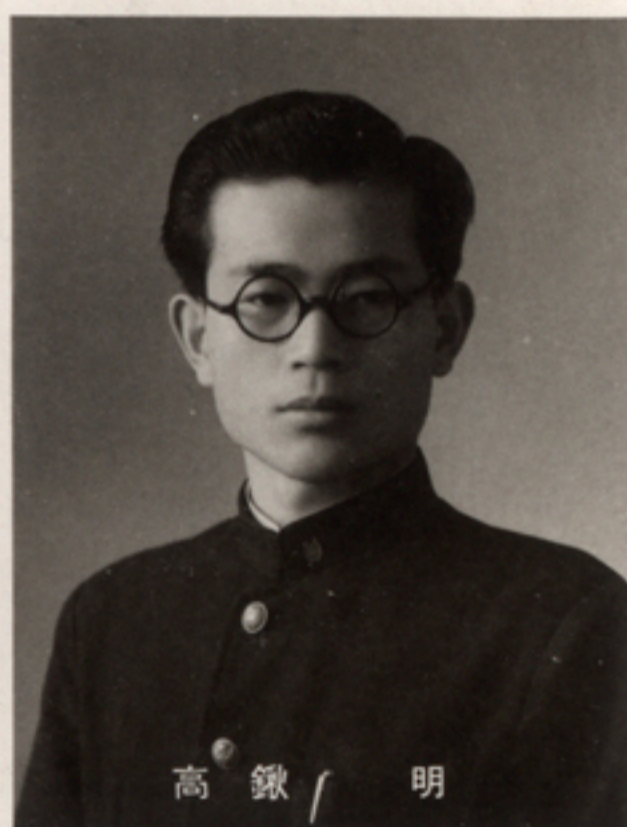
田村祐三



高橋晃



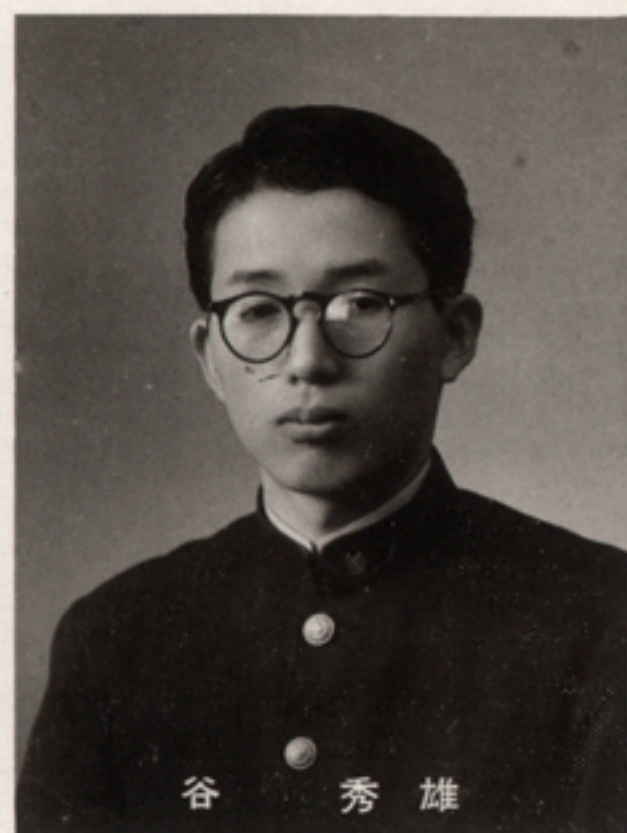
高田彦義



高敏明



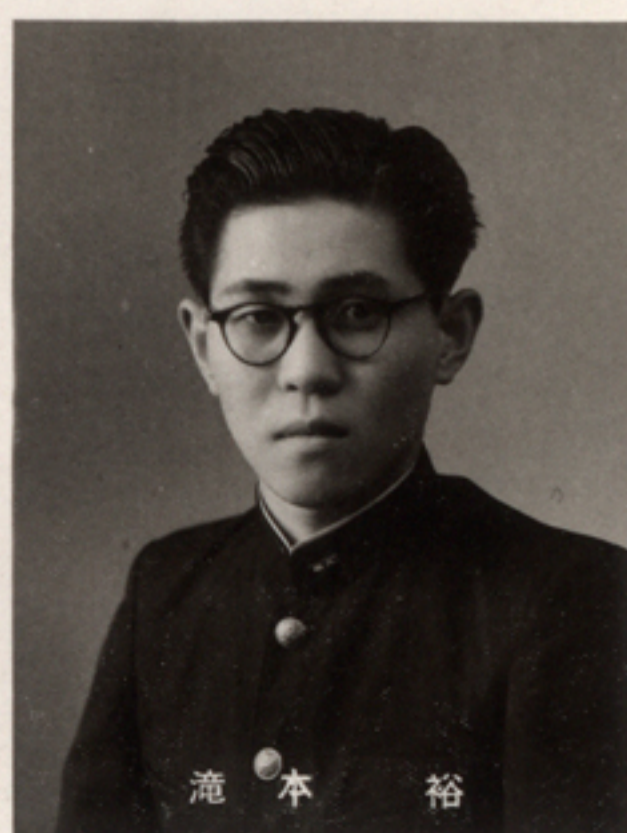
谷内宏文



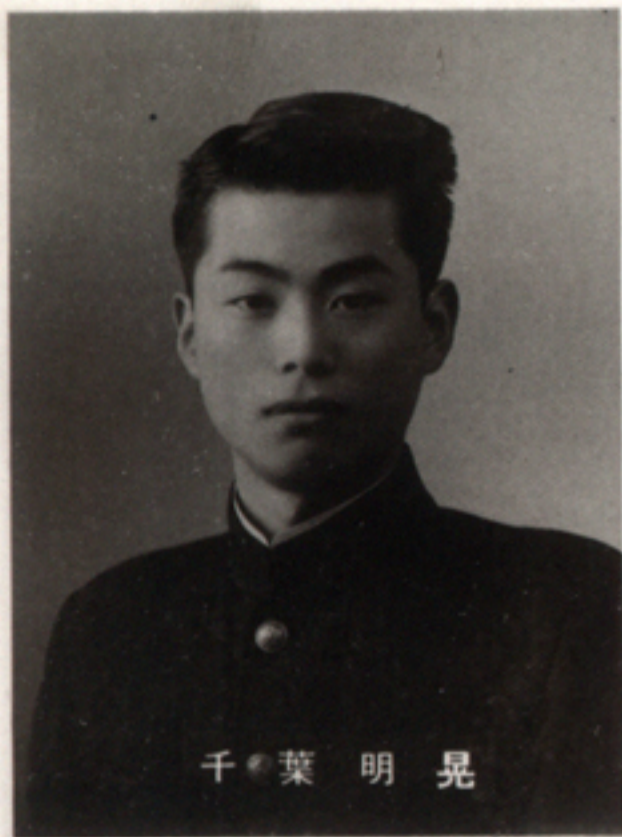
谷秀雄



滝沢富一



滝本裕



千葉明晃



竹内寧



武山弘



田沢貢



茶谷豊穂



千葉利喜彌



筒井 伶



土谷 皓



常川 哲郎



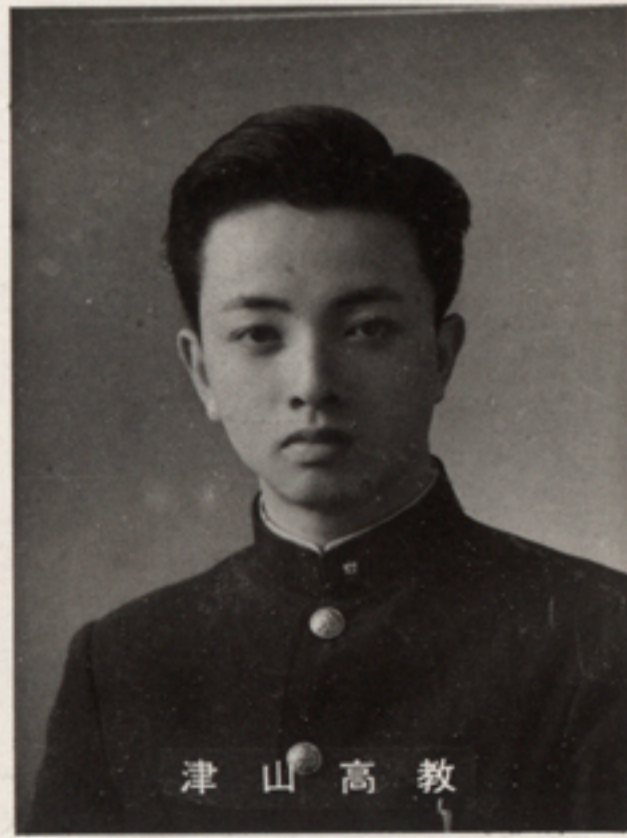
塚本 秀夫



島 栖七郎



寺島 慎一



津山 高教



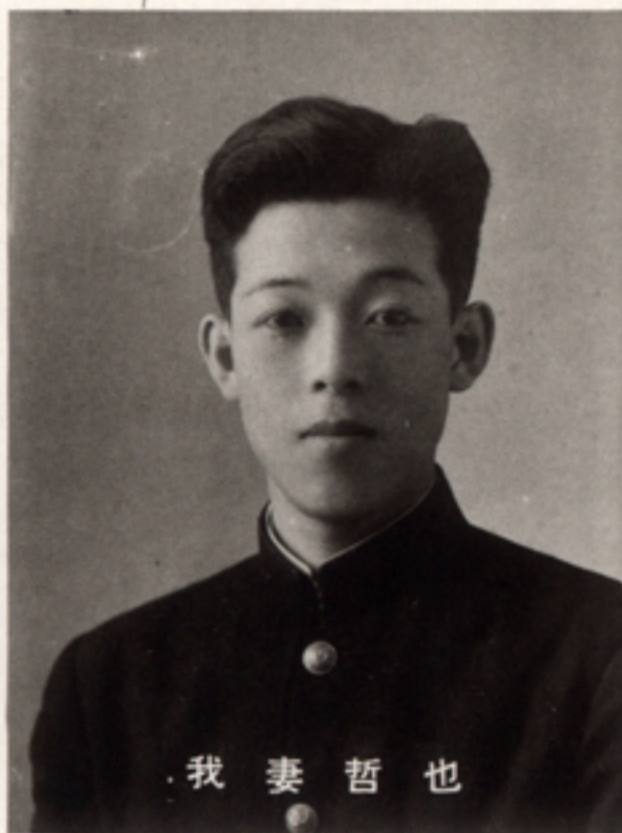
忠 光延



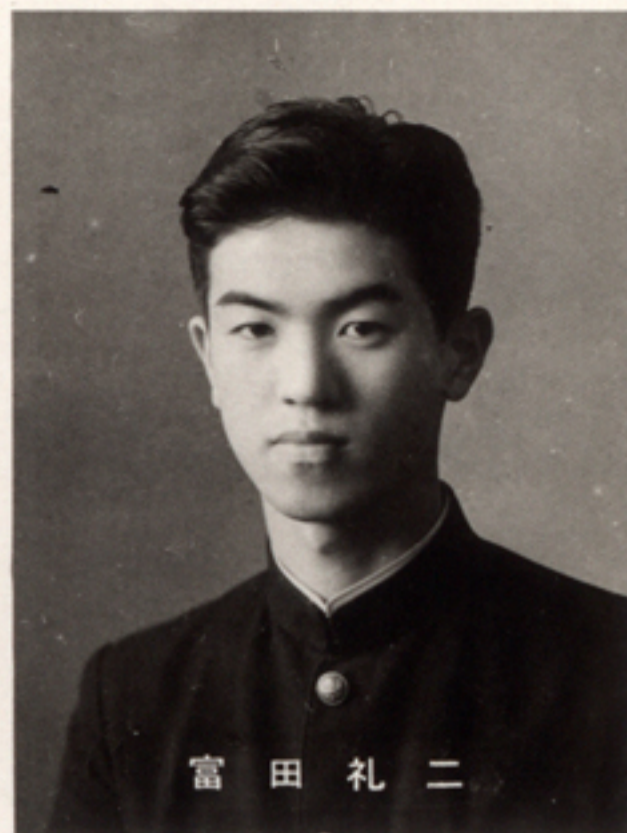
内田 勝夫



飛田 実



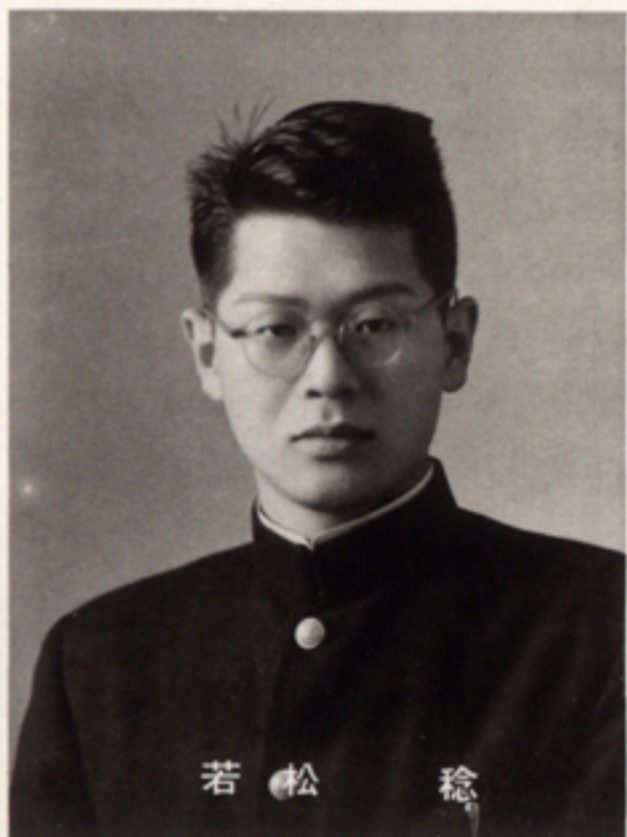
我妻 哲也



富田 礼二



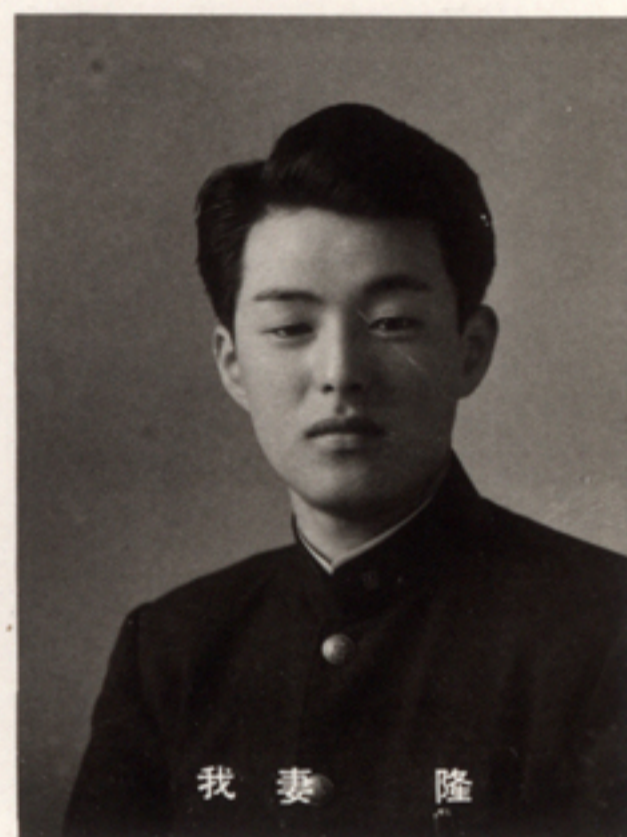
渡辺 徹



若松 稔



内田 和彦



我妻 隆



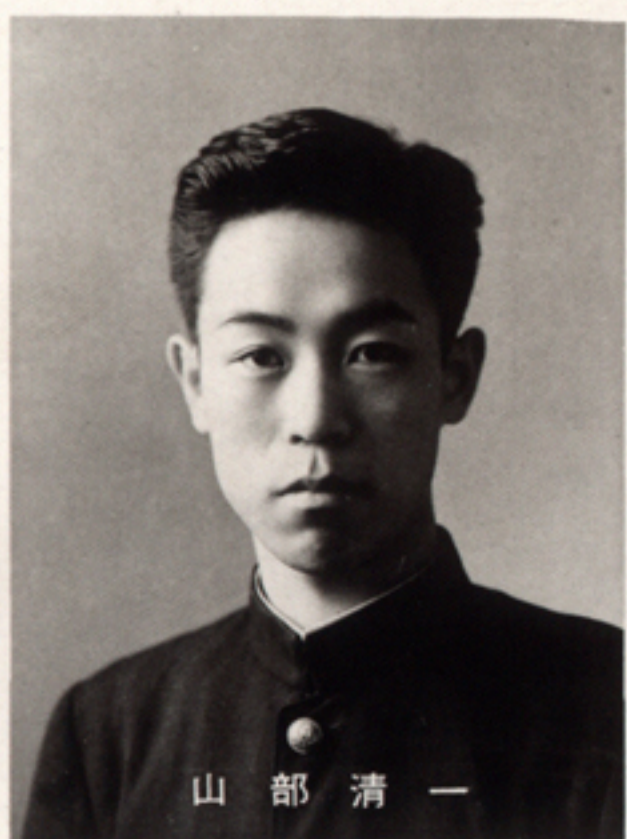
山口 外美男



山崎 裕資

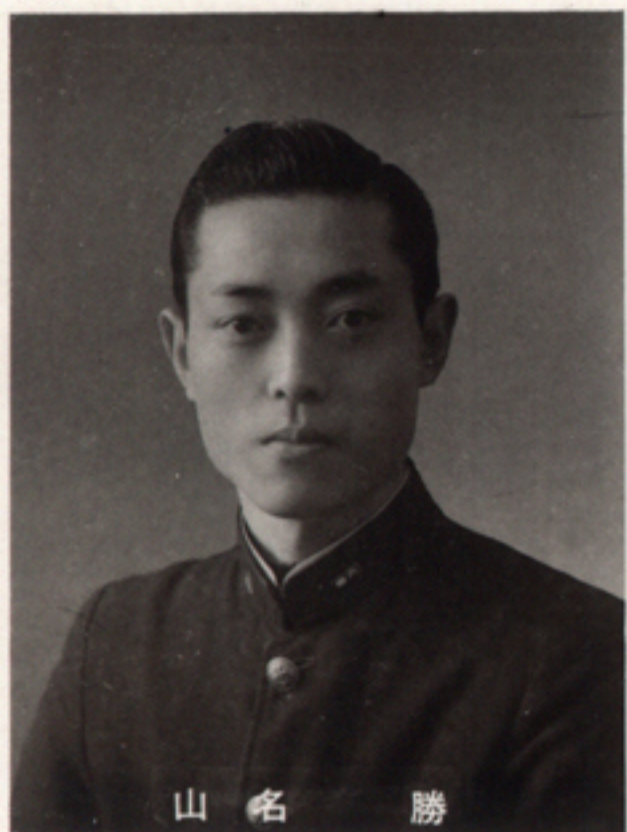


山村 信也

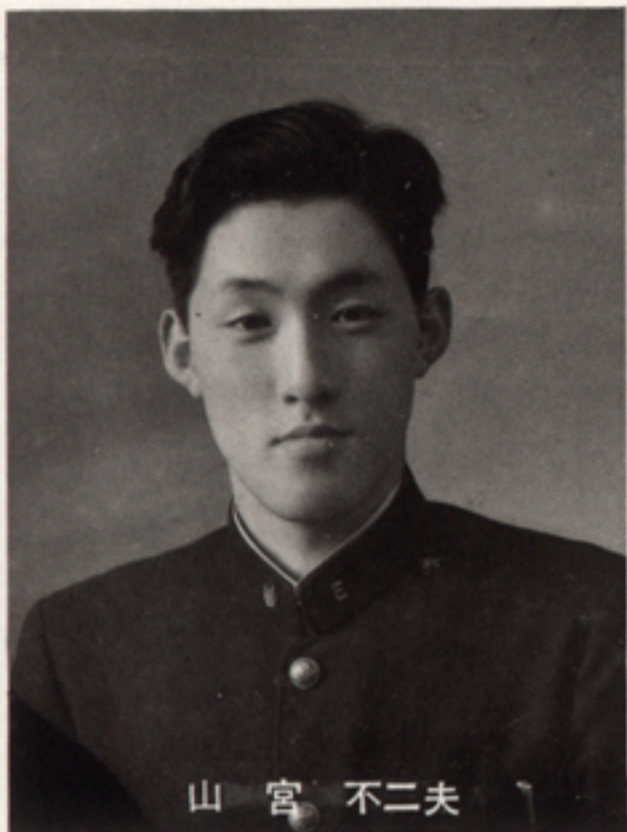


山部 清一

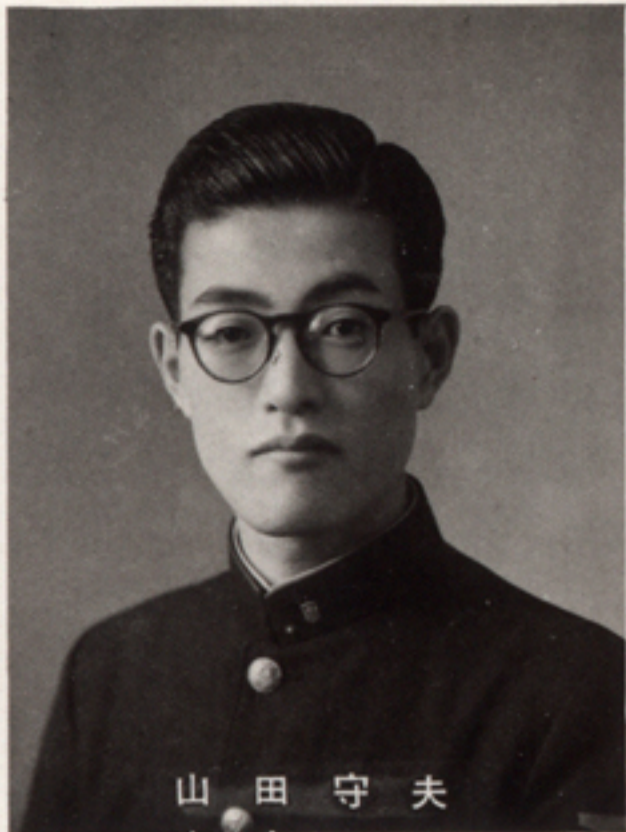




山名 勝



山宮 不二夫



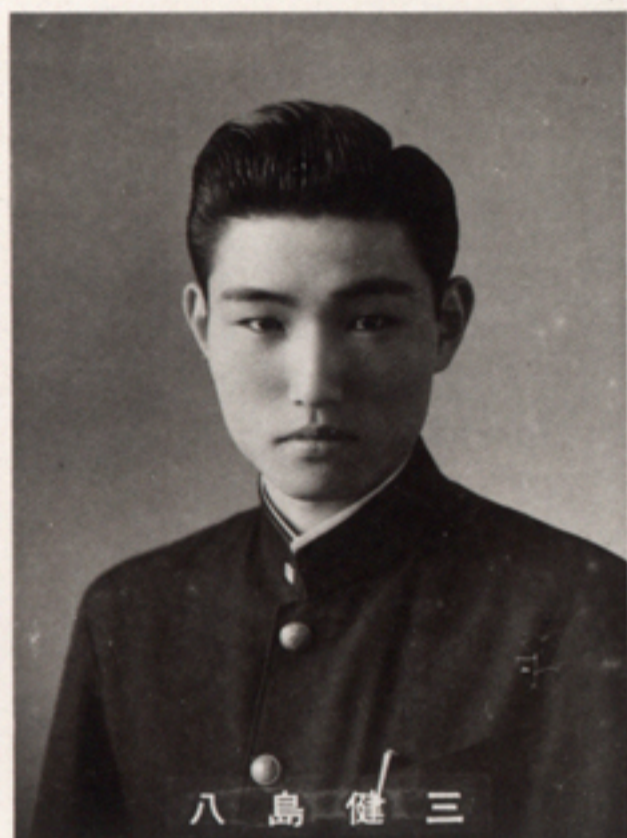
山田 守夫



山田 孝



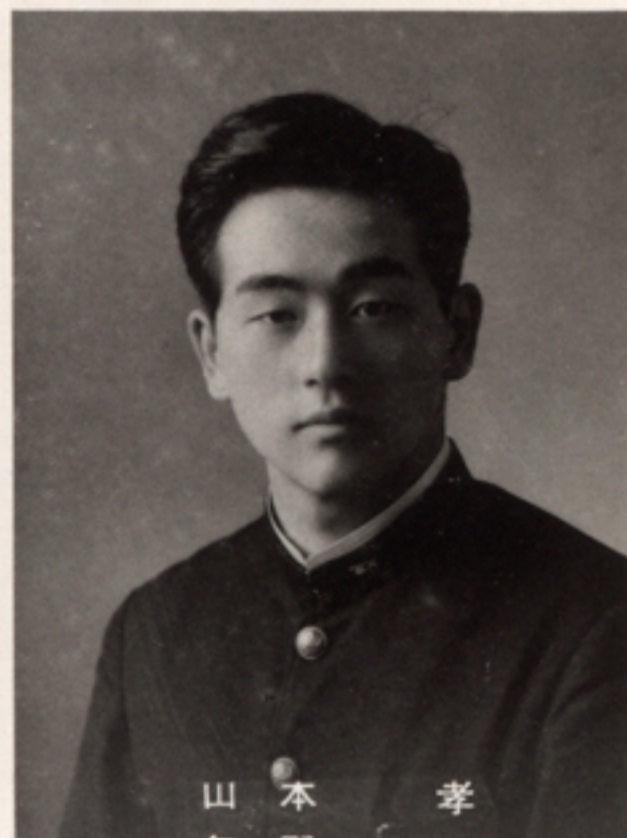
矢野 一敏



八島 健三



八木 俊昭



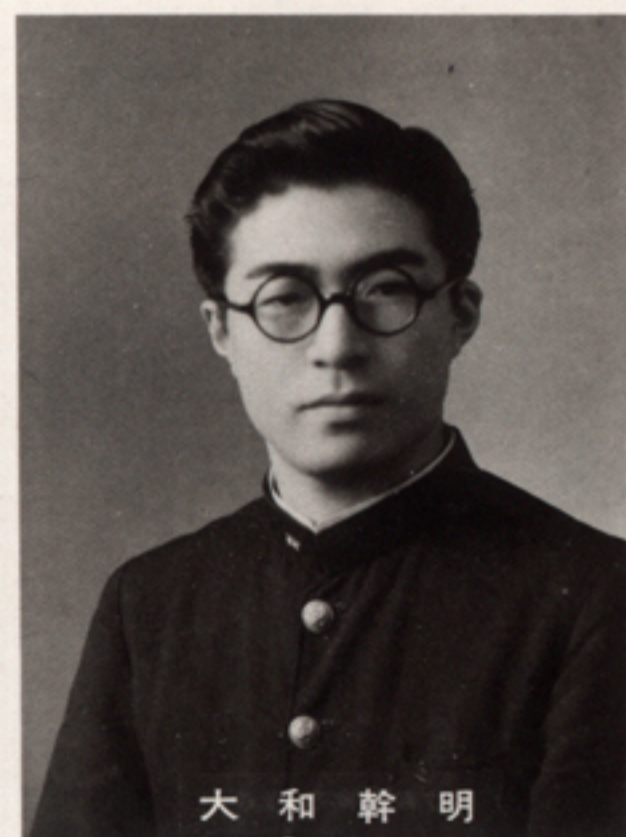
山本 孝



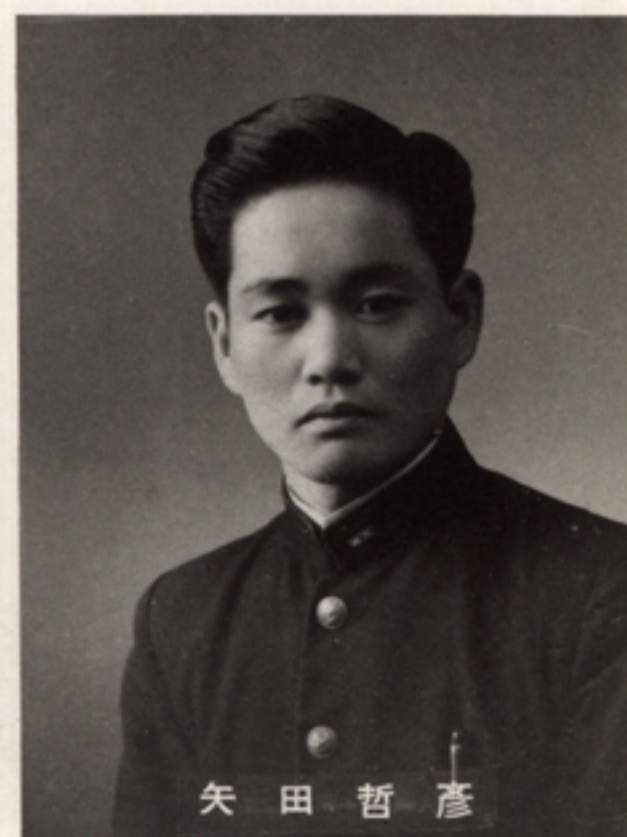
横川 和弘



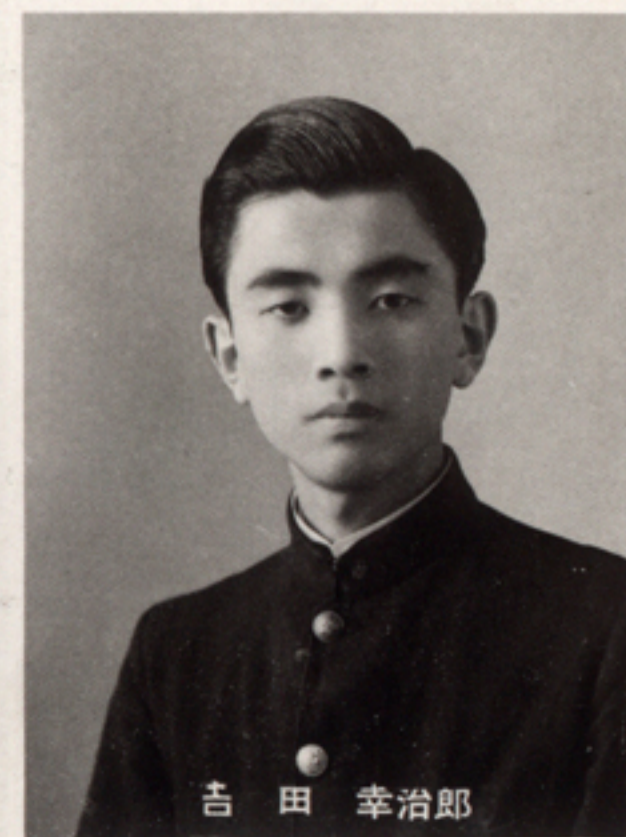
木山 昭七



大和 幹明



矢田 哲彦



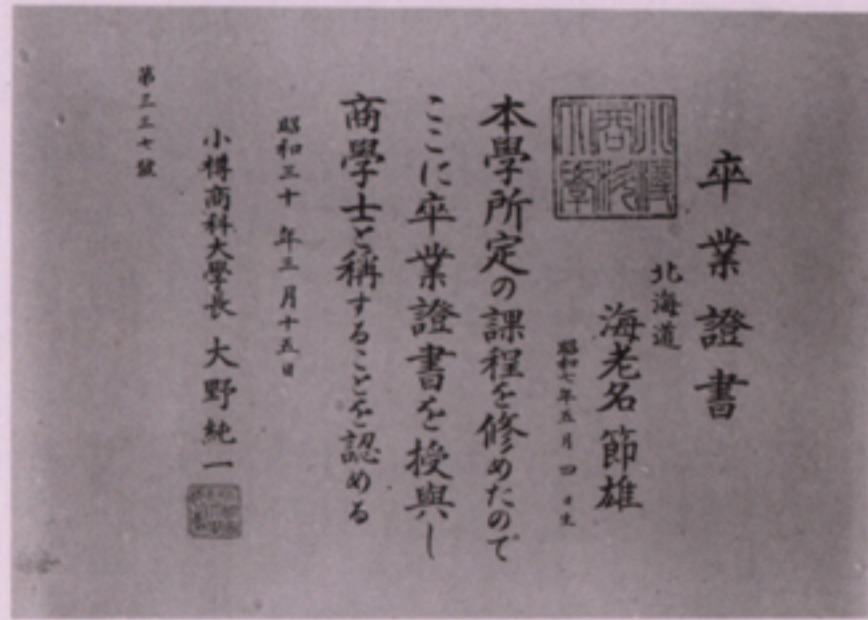
吉田 幸治郎



結城 謙武



卒業式



緑丘会新会員歓迎会(北海ホテル)



非常に完成が遅れたことをお詫び致します
我々は学生生活のアルバムと云うものは、どんな
意義をもつかを考えました。

それは若さをもって前向きに努力した学生生活
それが現実に進歩を示したかどうかは別として
—の記録を見ることにより諸君が社会に生きて
行く上のスタミナを与えるべきものでありま
しょう。

我々はこの目的に添うべく編集したつもり
です。長く座右に置いて小樽商大の生活を
忍ぶ縁にして下さい。

柴田勇吉記

昭和三十年年度卒業

アルバム編輯委員

柴田勇吉
山部清一

0234